

《販わい分野》

文化スポーツ振興部

2025年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	文化振興課	歳出目名	文化振興費
			事業類型	a:施設所管型	

1.組織概要

組織の使命	◆誰もが文化芸術に親しめるよう、市民の文化芸術活動振興や環境づくりに取り組みます。	他自治体の取り組み等	◆市民が「文化芸術活動(創作や出演、習い事、体験活動への参加など)を行った割合」は29.5%で、全国(21.7%)よりも高い傾向にあります。一方、「ホールや劇場、美術館、博物館等で文化芸術を鑑賞する割合」は66.6%で、全国(67.3%)をやや下回っています。
所管事務	◆文化振興計画に関すること◆文化振興のための事業に関すること◆芸術家支援に関すること◆町田市民ホールに関すること◆鶴川緑の交流館に関すること◆町田市フォトサロンに関すること◆成人式(二十祭まちだ)に関すること◆国際交流に関すること◆町田市文化・国際交流財団との連絡調整に関すること		

2. 2024年度末の総括と2025年度状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画の実効性を高めるため、ヒアリング等に基づく現場の声を計画に反映していく必要があります。
◆外国人住民への支援のあり方を見直す必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆文化芸術のまちづくり計画に基づいた事業を展開するとともに、次期5ヵ年計画とも事業を連動させていきます。		◆文化芸術のまちづくり計画に基づく事業展開を加速します。	
取組状況	個別取組	○ 市民や団体、事業者等の多くの方の声・意見を伺い、反映することで、「町田市文化芸術のまちづくり計画」を2026年2月に策定しました。 ○ 市民が文化芸術に興味・関心を持てるよう2024年度の平均29件/月のSNS(Instagram)投稿を上回る平均34件/月、情報発信しました。 △ 多文化共生推進のため、町田国際交流センターと調整・協議のうえ、市との役割を整理しましたが、方針の策定に至りませんでした。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
文化芸術のまちづくりの推進	%	目標	—	—	策定	19%	35%	市内で文化芸術活動・鑑賞する機会を持つことができた市民の割合
		実績	—	—	計画策定		(2035年度)	
文化芸術プロモーションのInstagramのフォロワー数	人	目標	1,050	1,300	1,500	1,800	1,950	文化芸術プロモーションのInstagramのフォロワー数
		実績	1,197	1,388	1,647		(2027年度)	
多文化共生の推進	—	目標	—	—	事業区分の整理	方向性の決定と実施体制づくり完了	方向性の決定と実施体制づくり完了	新たな外国人支援体制の構築
		実績	—	—	整理完了		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆若者へのヒアリングや市民意見募集で寄せられた市民の声、さらに庁内検討会や町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会での委員からの意見を反映し、2026年2月に「町田市文化芸術のまちづくり計画」を策定しました。◆文化芸術プロモーションのInstagramアカウントにて、毎月平均34件投稿し、あわせてストーリー投稿を行いました。部内でテーマごとに運用しているSNSアカウント等と連携を図り、相乗効果を高める投稿を工夫することにより、フォロワー数が1,388人から1,647人となり、259人増加しました。◆国や東京都、他自治体の状況等を整理するとともに、町田国際交流センターの業務内容やボランティアの活動状況を確認し、市の現状を把握することで、市とセンターの役割を整理しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目	2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
人件費	175,333	185,470	108,597	△ 76,873	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	7,262	8,424	5,998	△ 2,426	保険料	0	0	0	0
物件費	454,015	426,126	365,094	△ 61,032	国庫支出金	0	0	8,467	8,467
うち委託料	431,437	402,350	363,379	△ 38,971	都支出金	52,640	6,296	0	△ 6,296
維持補修費	17,743	13,939	19,800	5,861	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	21,750	24,538	22,000	△ 2,538	その他	4,625	7,217	4,500	△ 2,717
減価償却費	190,224	188,074	188,213	139	行政収入 小計(a)	57,265	13,513	12,967	△ 546
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 826,540	△ 867,728	△ 701,954	165,774
賞与・退職手当引当金繰入額	24,740	43,094	11,217	△ 31,877	金融収支差額(d)	△ 9,726	△ 9,701	△ 9,027	674
行政費用 小計(b)	883,805	881,241	714,921	△ 166,320	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 836,266	△ 877,429	△ 710,981	166,448
特別費用(g)	0	0	0	0	特別収入(f)	0	2,825	17,408	14,583
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	2,825	17,408	14,583	当期収支差額(e)+(h)	△ 836,266	△ 874,604	△ 693,573	181,031

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	町田市民ホール及び鶴川緑の交流館ホール指定管理委託料 338,312千円 町田市フォトサロン指定管理委託料 11,191千円 芸術文化イベント推進事業 5,016千円	町田市民ホールエレベーター改修工事請負費 19,800千円
主な増減理由	組織改正に伴い、博物館管理事務や芹ヶ谷公園「芸術の杜」パークミュージアム整備事業の所管替えを行ったことにより、61,032千円減少。	修繕の件数は少なかったが、町田市民ホールエレベーターの改修に経費を要したことにより、5,861千円増加。
勘定科目	補助費等	国庫支出金
決算額の主な内訳	一般財団法人町田市文化・国際交流財団補助金 19,000千円 町田市文化協会事業補助金 1,600千円 町田市文化芸術活動団体等支援事業補助金 1,000千円 町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会委員謝礼 337千円	物価高騰対策地方創生臨時交付金(町田市民ホール) 5,287千円 物価高騰対策地方創生臨時交付金(鶴川緑の交流館) 3,180千円
主な増減理由	組織改正に伴い、博物館管理事務や芹ヶ谷公園「芸術の杜」パークミュージアム整備事業の所管替えを行ったことにより、2,538千円減少。	光熱水費の高騰に対応して、町田市民ホール及び鶴川緑の交流館の指定管理委託料の上乗せ分に充当したことにより、8,467千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	還付未済金	122,890	139,099	16,209
	不納欠損引当金	0	0	0		地方債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		賞与引当金	105,037	127,882	22,845
固定資産	有形固定資産	3,398,396	3,210,183	△ 188,213	固定負債	賞与引当金	17,853	11,217	△ 6,636
	土地	398,424	398,424	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	5,680,559	5,541,559	△ 139,000		負債の部合計	1,274,769	1,085,664	△ 189,105
	建物減価償却累計額	△ 2,680,587	△ 2,729,800	△ 49,213	地方債	地方債	1,116,508	988,626	△ 127,882
	工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	158,261	97,038	△ 61,223
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	純資産	負債の部合計	1,397,659	1,224,763	△ 172,896
	インフラ資産	0	0	0		純資産	3,134,653	1,988,420	△ 1,146,233
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産の部合計	純資産の部合計	3,134,653	1,988,420	△ 1,146,233
	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
建設仮勘定		157,586	0	△ 157,586	負債及び純資産の部合計		4,532,312	3,213,183	△ 1,319,129
その他の固定資産		976,330	3,000	△ 973,330					
資産の部合計		4,532,312	3,213,183	△ 1,319,129					

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	建設仮勘定	その他の固定資産
決算額の主な内訳	町田市民ホール 2,698,561千円 鶴川緑の交流館 2,842,998千円	建設仮勘定 0千円	一般財団法人町田市文化・国際交流財団出資金 3,000千円
主な増減理由	組織改正に伴い、町田市立博物館の所管替えを行ったことにより、139,000千円減少。	組織改正に伴い、芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム整備事業の所管替えを行ったことにより、157,586千円減少。	組織改正に伴い、博物館事業の所管替えを行ったことにより、973,330千円減少。

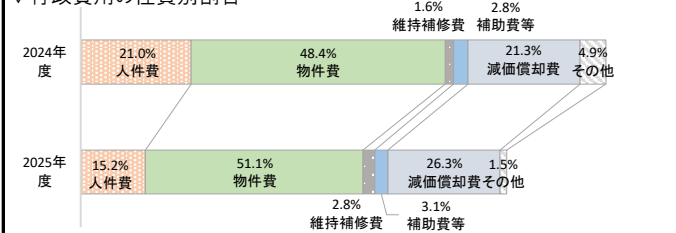
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	12,967	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	544,344	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	105,037
行政サービス活動収支差額(a)	△ 531,377	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 105,037
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 636,414
				一般財源充当調整額	636,414

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



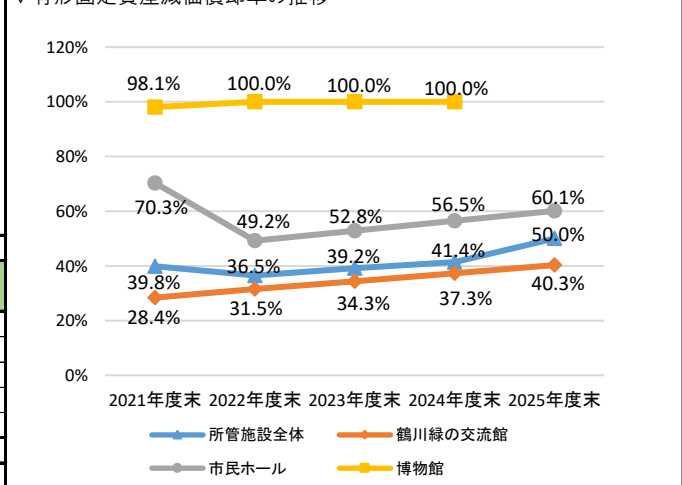
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
文化振興課管理業務	2.6			1.3		3.9	4.1
指定管理業務	2.6					2.6	1.7
文化振興業務	2.9			0.4		3.3	3.2
博物館業務						0.0	5.3
その他業務	2.0			0.1		2.1	8.1
2025年度 歳出目 合計	10.1	0.0	0.0	1.8	0.0	11.9	22.4
2024年度 歳出目 合計	19.0	0.0	0.0	2.1	1.3	22.4	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆2026年2月に策定した「町田市文化芸術のまちづくり計画」では、市民や団体、事業者等の多くの方々の声・意見を集め、反映することにより、市民の文化芸術活動振興や環境づくりに一層取り組むための基盤を整えました。◆誰もが文化芸術に触れるきっかけづくりとして、文化芸術プロモーション(Instagramアカウント)の投稿数を2024年度の平均29件/月から平均34件/月に増やすことで、投稿閲覧数は前年度の1,259回/月から1,543回/月(+23%)に増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆文化振興課管理業務において、役割分担を明確化し、業務を効率的に進めたことにより、人員は0.2人減少しました。◆文化芸術プロモーション(Instagramアカウント)については、投稿数を増やす(前年度の平均29件/月から平均34件/月)ことや、部内でテーマごとに運用しているSNSアカウント等と連携を図り、相乗効果を高める投稿を工夫すること等により、フォロワー数が1,388人から1,647人(+19%)に増加しました。◆文化芸術団体等支援事業補助金を交付し、市内で活動するアーティストを支援しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆「町田市文化芸術のまちづくり計画」に掲げる「目指す姿」の実現に向けて、文化芸術プロジェクトや方針に基づく各取組を計画的に進めるため、事業を着実に推進していく必要があります。◆日本人住民と外国人住民がともに安全・安心に暮らすことができるよう、2025年度に整理した事業区分に基づき、国際交流センターと協議を進め、新たな外国人支援体制の方向性を決定するとともに、2027年度から方針に沿った運用を行うための実施体制を整える必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆文化芸術のまちづくり計画に基づいた事業を展開するとともに、次期5か年計画とも事業を連動させていきます。◆国際交流センターと協議を進め、新たな外国人支援体制の方向性を決定するとともに、2027年度から方針に沿った運用を行うための実施体制を整えます。	◆文化芸術のまちづくり計画に基づく事業展開を加速します。◆方針に沿った新たな外国人支援体制の運用を展開していきます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	文化振興課	歳出目名	文化振興費
特定事業名	フォトサロン事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	市民に写真その他の文化芸術に関する活動の場を提供し、文化芸術の振興に寄与するため、展示会の開催や貸出施設等の利用に関する業務を行います。								
基本情報	根拠法令等 町田市フォトサロン条例、町田市フォトサロン条例施行規則								
				2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市フォトサロン	
	利用料金収入（単位:千円）			725	517	491	建設年月日	1975年4月1日	
	受益者負担比率			5.4%	3.5%	2.3%		2023年度	2024年度
								96.0%	98.0%
							有形固定資産減価償却率	96.0%	98.0%
								100.0%	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆フォトサロンを含め、町田薬師池公園四季彩の杜全体の来園者数が増加していることから、引き続き、園内各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信が必要です。
- ◆施設の貸出利用を増やし、利用料金収入の増加を図るため、引き続き、写真の魅力を伝えたり、愛好家の裾野を広げ、展示室の利用につなげる取り組みが必要です。
- ◆建物が築50年を迎え、老朽化が進んでいるため、今後、フォトサロンのあり方の検討が必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆SNSや町田薬師池公園四季彩の杜ホームページを活用して、引き続き施設の魅力を伝えるための情報発信を行います。◆引き続き、撮影会や講座等を開催し、新規の展示室利用者の獲得に取り組みます。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。				◆「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」の目指す将来像に沿った施設の運営を進めることで、園全体の魅力を向上させる一役を担うとともに、フォトサロンの将来のあり方について決定します。			
取組状況	○	個別取組	○ 薬師池公園四季彩の杜全体で一体的に広報を行ったほか、企画展や講座等の開催情報をInstagramで76回、Xで172回投稿しました。				
			○ 春・秋の薬師池公園やタリヤ園、野津田公園で撮影会を開催し、撮影した作品の展示会をフォトサロンで開催しました。				
			○ 指定管理者選定に向けて課題整理や募集方法の検討を行ったほか、フォトサロンのあり方を検討するため、庁内検討会を行いました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	37,000	37,000	37,000	37,000	37,000	町田市フォトサロンの入場者数
		実績	33,123	40,502	36,554		(2026年度)	
企画事業数	回	目標	18	18	18	18	18	指定管理者が企画・立案した写真等に関する事業数
		実績	27	30	29		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆町田薬師池公園四季彩の杜各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信を行いました。薬師池公園の来園者に呼びかけ、展示の鑑賞を促す等、入場者数の増加に取り組みましたが、入場者数は、2024年度と比べ3,948人減少(△9.7%)し、目標をわずかに下回りました。
- ◆企画事業数は、2024年度と比べ1事業減少(△3.3%)しましたが、目標を上回りました。展示22事業のほか、展示室の利用につなげる取り組みとして、施設外での撮影会を4事業、写真講座を3事業実施しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	2,162	2,809	5,990	3,181	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	10,675	11,025	11,191	166		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	10,675	11,025	11,191	166		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	0		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	0	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 13,226	△ 14,839	△ 21,327	△ 6,488
	賞与・退職手当引当金繰入額	389	1,005	4,146	3,141		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	13,226	14,839	21,327	6,488		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 13,226	△ 14,839	△ 21,327	△ 6,488
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		△ 13,226	△ 14,839	△ 21,327	△ 6,488

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 5,990千円	指定管理委託料 11,191千円
主な増減理由	フォトサロンのあり方検討に伴い、事業に関わる人員が増加したことにより、3,181千円増加。	最低賃金の引上げや光熱費の高騰で指定管理委託料が増加したことにより、166千円増加。
勘定科目		
決算額の主な内訳	特になし	特になし
主な増減理由		

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
施設利用者1人あたりコスト	人	2025	36,554	583	217	入場者数が3,948人減少(△9.7%)し、行政費用が6,488千円増加(+43.7%)したことにより、217円増加(+59.3%)しました。
		2024	40,502	366	△ 33	
		2023	33,123	399	△ 18	
開館1日あたりコスト	日	2025	303	70,386	21,250	行政費用が6,488千円増加(+43.7%)したことにより、21,250円増加(+43.2%)しました。
		2024	302	49,136	5,772	
		2023	305	43,364	△ 5,280	

④貸借対照表

(単位:千円)

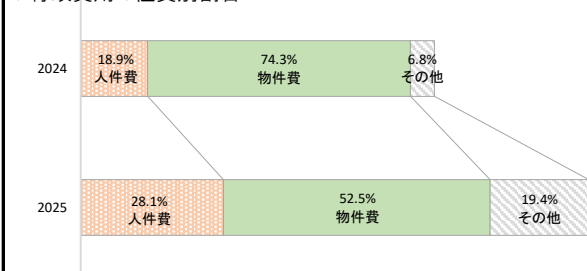
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			277	616	339	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	0	賞与引当金			277	616	339	
		土地		0	0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		0	0	0	固定負債			2,561	5,729	3,168	
		建物減価償却累計額		0	0	0	地方債			0	0	0	
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金			2,561	5,729	3,168	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			2,838	6,345	3,507	
		有形固定資産		0	0	0	純資産			△ 2,838	△ 6,345	△ 3,507	
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
	建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0	0							
		無形固定資産		0	0	0							
		建設仮勘定		0	0	0							
その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計			△ 2,838	△ 6,345	△ 3,507		
資産の部合計			0	0	0	負債及び純資産の部合計			0	0	0		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)		
決算額の主な内訳	フォトサロンの建物は、公園緑地課の薬師池四季彩の杜事業に計上しています。	特になし	特になし
主な増減理由			

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



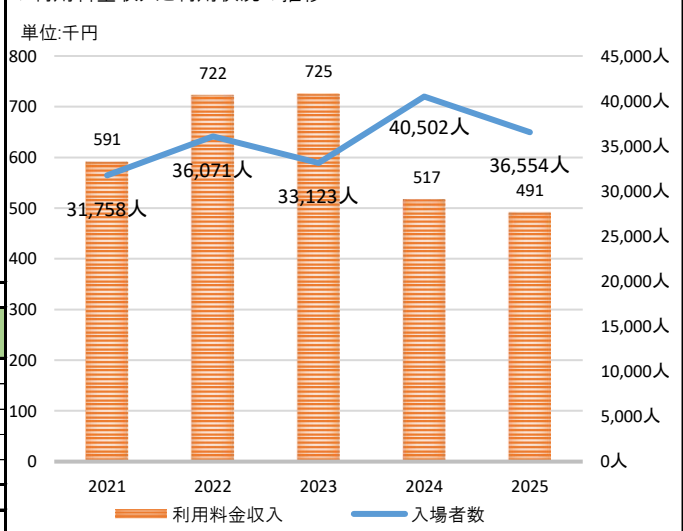
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	フォトサロン管理事務	0.5					0.5	0.3
	フォトサロン指定管理者選定事務	0.1					0.1	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.3
2024年度 特定事業 合計		0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆町田薬師池公園四季彩の杜内の各施設と連携してスタンプラリーを2回実施したほか、「春フェア」や「秋遊び」として、四季彩の杜全体で一体的に広報を行うなど、施設の魅力を伝える情報発信を行いました。フォトサロンの入場者数は、2024年度と比べ3,948人減少(△9.7%)しました。四季彩の杜全体の来園者数の減少率(△7.1%)を上回っています。

◆季節の草花を題材に展示や撮影会、写真講座など写真愛好家の裾野を広げる企画事業を29事業実施しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆行政費用については、最低賃金の引上げや光熱費の高騰により、2024年度と比べ物件費(指定管理委託料)が166千円増加(+1.5%)しました。

◆施設の貸出利用が減少したため、利用料金収入は2024年度と比べて26千円減少(△5.1%)しました。

◆フォトサロンのあり方について庁内で定期的に検討会を開催したため、事業に関わる人員は2024年度と比べて0.3人増加しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆フォトサロンを含め、町田薬師池公園四季彩の杜全体の来園者数が減少していることから、引き続き、園内各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信が必要です。

◆施設の貸出利用を増やし、利用料金収入の増加を図るため、引き続き、写真愛好家の裾野を広げ、展示室の利用につなげる取り組みが必要です。

◆2025年度に整理した課題や募集方法を踏まえ、次期指定期間の指定管理者を選定するとともに、フォトサロンの廃止に向けた取り組みを進める必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆SNSや町田薬師池公園四季彩の杜ホームページを活用して、引き続き施設の魅力を伝えるための情報発信を行います。◆引き続き、撮影会や講座等を開催し、新規の展示室利用者の獲得に取り組みます。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定を行います。◆フォトサロンの廃止に向けて、利用者が代替施設へ円滑に移行できるよう周知を進めていきます。	◆「町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画」の目指す将来像に沿って、関連部署と連携しながら、フォトサロン廃止後の写真愛好家の集う場の提供について、取り組みを検討していきます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	文化振興課	歳出目名	文化振興費
特定事業名	市民ホール事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	市民の文化の向上と福祉の増進に寄与するため、文化の提供事業や文化活動の支援および市民参加型事業を実施するとともに、市民ホールの貸出施設の利用に関する業務を行います。							
基本情報	根拠法令等 町田市民ホール条例、町田市民ホール条例施行規則							
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称		町田市民ホール	
	利用料金収入（単位:千円）	108,785	109,504	85,836	建設年月日		1977年2月24日	
	受益者負担比率	26.8%	26.7%	20.6%			2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率		52.8%	56.5%
							60.1%	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫を行うとともに、主催・共催事業数を増やすなど、入場者数の増加に向けた取り組みが必要です。
- ◆新しい利用方法を積極的に提案するなど、利用率の低い諸室の利用率の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆建物が建設されて約50年が経過したため、市民ホールの今後のあり方について検討していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆過去に人気のあった公演等を開催するとともに、新しいジャンルやアーティストの公演を開催し、新規客層を開拓することで入場者数の向上を図ります。				◆市民ホールも含めた市内の文化施設のあり方について、2025年度策定予定の(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画を踏まえて検討を進めます。			
◆利用率の低い諸室の利用率の向上に向けて、新しい利用方法を検討・実施していきます。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。							
取組状況	○	個別取組	○ NHK公開収録「東京落語会」や宝くじ文化公演、東京都消防庁音楽隊と連携した「避難訓練コンサート」など多様な事業を実施しました。				
			○ 会議室を活用して事業展開したほか、利用率の低いギャラリーは会議や控室等、展示以外の利用方法を提案し、利用に繋げました。				
			○ 2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行いました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	59,000	59,000	59,000	59,000	59,000	市民ホールで実施される事業の入場者数
		実績	59,987	51,190	39,563		(2026年度)	
施設利用率(平均)	%	目標	68	70	72	74	74	貸出施設の利用率
		実績	54	57	56		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆有名アーティストによるコンサート等の事業と市民参加型事業を合わせて49事業実施しました。2024年度と比べて6事業増加(+14.0%)しましたが、会議室を活用した小規模な事業もあったことから、入場者数は11,627人減少(△22.7%)しました。
- ◆ギャラリーの利用率が37.1%と2024年度から3.8ポイント上昇しましたが、会議室やホールの利用率が低下したため、施設全体の利用率は0.7ポイント低下しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	6,177	6,026	10,243	4,217	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	184,091	180,110	179,066	△ 1,044		国庫支出金	0	0	5,287	5,287
	うち委託料	183,449	178,603	179,066	463		都支支出金	0	1,995	0	△ 1,995
	維持補修費	2,853	5,905	19,800	13,895		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	100,893	100,893	100,968	75		行政収入 小計(a)	0	1,995	5,287	3,292
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 297,175	△ 291,712	△ 310,697	△ 18,985
	賞与・退職手当引当金繰入額	3,161	773	5,907	5,134		金融収支差額(d)	△ 3,574	△ 4,190	△ 4,161	29
	行政費用 小計(b)	297,175	293,707	315,984	22,277		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 300,749	△ 295,902	△ 314,858	△ 18,956
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	1,766	0	△ 1,766
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	1,766	0	△ 1,766	当期収支差額(e)+(h)		△ 300,749	△ 294,136	△ 314,858	△ 20,722

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 10,243千円	指定管理委託料 179,066千円
主な増減理由	指定管理者選定事務に関わる人員の増加により、4,217千円増加。	当初の提案額に基づき、指定管理委託料が463千円増加。備品購入費が1,507千円減少。
勘定科目	維持補修費	国庫支出金
決算額の主な内訳	エレベーター改修工事費 19,800千円	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 5,287千円
主な増減理由	エレベーターの改修工事を行うことにより、13,895千円増加。	光熱水費の高騰に対応し、指定管理委託料の上乗せ分に充当したことにより、5,287千円増加。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
入場者1人あたりコスト	人	2025	39,563	7,987	2,249	入場者数が11,627人減少(△22.7%)し、行政費用が22,277千円増加(+7.6%)したため、2,249円増加(+39.2%)しました。
		2024	51,190	5,738	784	
		2023	59,987	4,954	△ 24,149	
開館1日あたりコスト	日	2025	333	948,901	66,898	開館日数の増減はありませんが、行政費用が22,277千円増加(+7.6%)したため、66,898円増加(+7.6%)しました。
		2024	333	882,003	△ 5,087	
		2023	335	887,090	△ 2,962,455	

④貸借対照表

(単位:千円)

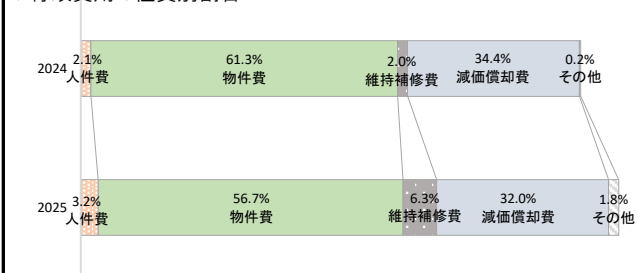
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			2,039	24,690	22,651	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			1,440	23,636	22,196	
							賞与引当金			599	1,054	455	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		1,197,673	1,096,705	△ 100,968	その他の流動負債			0	0	0	
		土地		0	0	0	固定負債			436,683	417,283	△ 19,400	
		建物(取得価額)		2,698,561	2,698,561	0	地方債			431,124	407,489	△ 23,635	
		建物減価償却累計額		△ 1,500,888	△ 1,601,856	△ 100,968	退職手当引当金			5,559	9,794	4,235	
		工作物(取得価額)		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0	
		工作物減価償却累計額		0	0	0	負債の部合計			438,722	441,973	3,251	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	純資産			758,951	654,732	△ 104,219	
		有形固定資産		0	0	0							
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
工作物減価償却累計額			0	0	0								
	無形固定資産		0	0	0								
	建設仮勘定		0	0	0								
	その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計			758,951	654,732	△ 104,219		
	資産の部合計		1,197,673	1,096,705	△ 100,968	負債及び純資産の部合計			1,197,673	1,096,705	△ 100,968		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	地方債(流動負債)	
決算額の主な内訳	建物本体 2,698,561千円	2026年度償還分 23,636千円	特になし
主な増減理由	増減なし	市民ホール改修事業で2022年度に借入を行った地方債などの償還のため、22,196千円増加。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



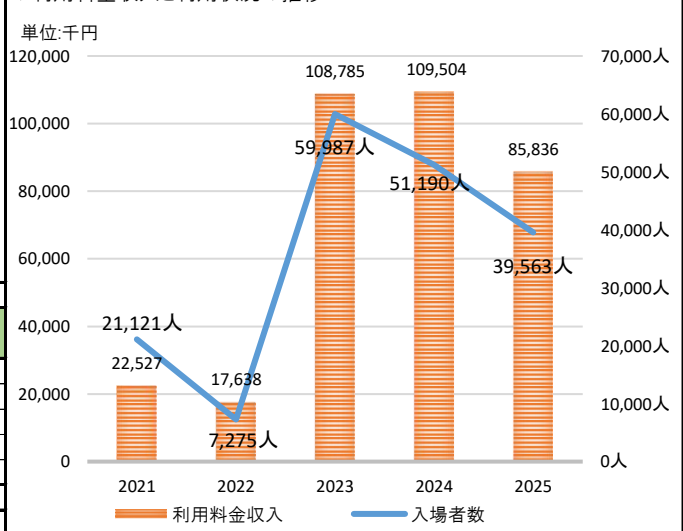
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	市民ホール管理事務	0.6					0.6	0.7
	市民ホール指定管理者選定事務	0.4					0.4	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7
2024年度 特定事業 合計		0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆2025年度は49事業を実施し、2024年度と比べて6事業増加(+14.0%)しましたが、入場者数は11,627人減少(△22.7%)しました。
- ◆ギャラリーの利用率が37.1%と2024年度から3.8ポイント上昇しましたが、会議室やホールの利用率が低下したため、施設全体の利用率は0.7ポイント低下しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆一部コンサート等の事業が低調だったことから、入場料収入は2024年度と比べて25,645千円減少(△46.1%)しました。
- ◆施設全体の利用率は0.7ポイント低下しましたが、附属設備の貸出が増加したこと等から、貸出施設の利用料金収入は約2,472千円増加(+4.8%)しました。結果、入場料収入等を合わせた利用料金収入全体では23,668千円減少(△21.6%)しました。
- ◆次期指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行ったため、事業に関わる人員は2024年度と比べて0.3人増加しました。
- ◆エレベーター改修工事を行うため、維持補修費は2024年度と比べ13,895千円増加(+235.3%)しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫を行うとともに、主催・共催事業数を増やすなど、入場者数の増加に向けた取り組みが必要です。
- ◆新しい利用方法を積極的に提案するなど、利用率の低い諸室の利用率の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆建物が建設されて約50年が経過したため、市民ホールの今後のあり方について検討していく必要があります。
- ◆2025年度に整理した課題や募集方法を踏まえ、次期指定期間の指定管理者を選定する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆過去に人気のあった公演等を開催するとともに、新しいジャンルやアーティストの公演を開催し、新規客層を開拓することで入場者数の向上を図ります。 ◆利用率の低い諸室の利用率の向上に向けて、新しい利用方法を検討・実施していきます。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定を行います。	◆市民ホールの今後のあり方について検討していきます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	文化振興課	歳出目名	文化振興費
特定事業名	鶴川緑の交流館事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	市民の芸術文化の創造活動および地域的な共同活動その他の市民活動の推進を図り、もって魅力ある地域社会づくりに寄与するため、ホール等の施設および附属設備の貸し出しや市民の芸術文化の向上に資する事業を行います。						
	根拠法令等 町田市鶴川緑の交流館条例、町田市鶴川緑の交流館条例施行規則						
基本情報		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市鶴川緑の交流館	
	利用料金収入（単位:千円）	38,072	49,614	52,748	建設年月日	2012年9月27日	
	受益者負担比率	12.7%	15.9%	16.8%		2023年度	2024年度
						2025年度	
					有形固定資産減価償却率	34.3%	37.3%
						40.3%	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆引き続き事業ジャンルの選定を工夫する等、入場者数の向上に向けた取り組みが必要です。	
◆諸室の特性に応じた利用方法を積極的に提案していく等、利用率の低い諸室の利用率の向上に向けた取り組みが必要です。	
◆開館12年が経過し、施設設備の経年劣化が進行しているため、計画的な修繕を行う必要があります。	

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆過去に人気のあった公演等を開催するとともに、新しいジャンルやアーティストの公演を開催し新規客層を開拓することで入場者数の増加を図ります。		◆経年劣化によって発生する設備修繕について指定管理者や関係部署と連携し、状況把握や優先順位の判断等を計画的に行います。	
◆諸室の特性に応じた利用方法を積極的に提案する等、利用率の低い諸室の利用率向上の取り組みを検討・実施します。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて課題整理や募集方法を検討します。			
取組状況	○	個別取組	○ 鶴川駅前図書館との共催で文化講座を3回、カフェと連携したサロンコンサートを6回実施しました。
			○ 多目的室を活用し「オーボエ・ファゴット入門」、「高級蓄音機体験」、「浮世絵摺りワークショップ」等、体験型・参加型事業を開催しました。
			○ 2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定に向けて課題整理や募集方法を検討しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	16,100	16,100	16,100	16,100	16,100	鶴川緑の交流館で実施される事業の入場者数
		実績	14,531	16,453	16,925		(2026年度)	
施設利用率(平均)	%	目標	68	70	72	74	74	貸出施設(ホール、会議室等)の利用率
		実績	63	64	66		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆有名アーティストによるコンサート等の事業と市民参加型事業を合わせて74事業実施し、入場者数は2024年度と比較して472人増加(+2.9%)し目標を達成しました。	
◆全ての諸室で利用率が上昇し、施設全体では2.7ポイント上昇しました。特に、多目的室の利用率は59.9%となり、2024年度から5.5ポイント上昇しました。	

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	7,567	6,179	9,693	3,514	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	163,822	162,860	159,246	△ 3,614		国庫支出金	0	0	3,180	3,180
	うち委託料	162,550	162,860	159,246	△ 3,614		都支支出金	0	4,301	0	△ 4,301
	維持補修費	7,520	7,656	0	△ 7,656		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	4,500	4,500	4,500	0
	減価償却費	86,820	87,181	87,245	64		行政収入 小計(a)	4,500	8,801	7,680	△ 1,121
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 265,869	△ 255,689	△ 253,654	2,035
	賞与・退職手当引当金繰入額	4,640	614	5,150	4,536		金融収支差額(d)	△ 6,074	△ 5,442	△ 4,806	636
	行政費用 小計(b)	270,369	264,490	261,334	△ 3,156		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 271,943	△ 261,131	△ 258,460	2,671
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	2,048	0	△ 2,048
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	2,048	0	△ 2,048	当期収支差額(e)+(h)		△ 271,943	△ 259,083	△ 258,460	623

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	人件費	物件費
決算額の主な内訳	人件費 9,693千円	指定管理委託料 159,246千円
主な増減理由	指定管理者選定事務に関わる人員の増加により、3,514千円増加。	当初の提案額に基づき、指定管理委託料が3,614千円減少。
勘定科目	国庫支出金	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 3,180千円	広告掲載料(和光大学ポブリホール鶴川命名権料) 4,500千円
主な増減理由	光熱水費の高騰に対応して、指定管理委託料の上乗せ分に充当したことにより、3,180千円増加。	増減なし

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
入場者1人あたりコスト	人	2025	16,925	15,441	△ 634	入場者数が472人増加(+2.9%)し、行政費用が3,156千円減少(△1.2%)したことにより、634円減少(△3.9%)しました。
		2024	16,453	16,075	△ 2,531	
		2023	14,531	18,606	△ 18,256	
開館1日あたりコスト	日	2025	338	773,178	△ 11,659	行政費用が3,156千円減少(△1.2%)したことにより、11,659円減少(△1.5%)しました。
		2024	337	784,837	△ 12,712	
		2023	339	797,549	42,975	

④貸借対照表

(単位:千円)

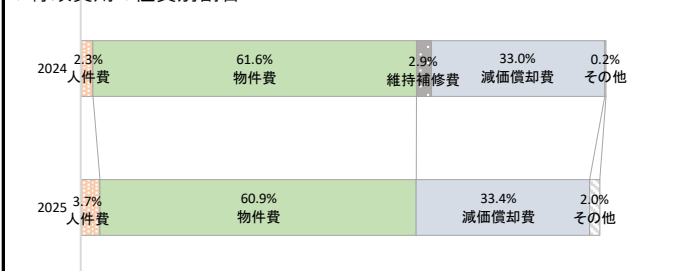
勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	103,489	104,512	1,023	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	102,875	103,515	640	
		0	0	0	賞与引当金	614	997	383	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	2,200,723	2,113,478	△ 87,245	その他の流動負債	0	0	0
		土地	398,424	398,424	0	固定負債	686,568	586,620	△ 99,948
		建物(取得価額)	2,842,998	2,842,998	0	地方債	680,867	577,352	△ 103,515
		建物減価償却累計額	△ 1,040,699	△ 1,127,944	△ 87,245	退職手当引当金	5,701	9,268	3,567
		工作物(取得価額)	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
		工作物減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	790,057	691,132	△ 98,925
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	純資産	1,410,666	1,422,346	11,680
		有形固定資産	0	0	0				
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
		工作物減価償却累計額	0	0	0				
		無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計	1,410,666	1,422,346	11,680
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	0	0	0					
資産の部合計		2,200,723	2,113,478	△ 87,245	負債及び純資産の部合計		2,200,723	2,113,478	△ 87,245

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	地方債(固定負債)	
決算額の主な内訳	建物本体 2,842,998千円	建設のための借入 577,352千円	特になし
主な増減理由	増減なし	2026年度償還分を流動負債に振替したことにより、103,515千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



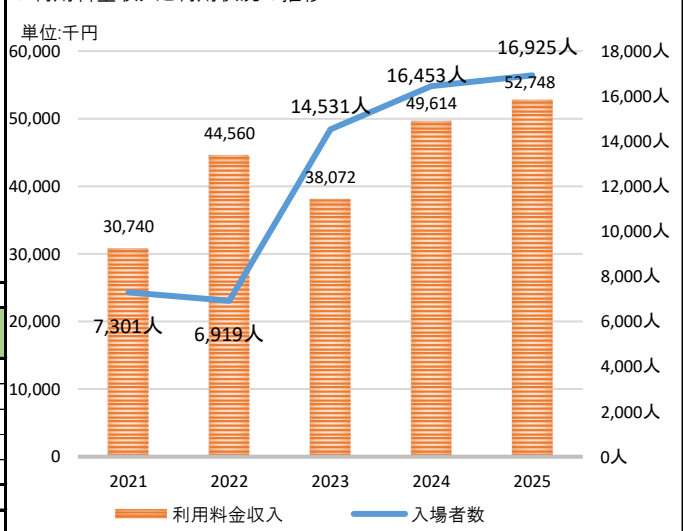
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
鶴川緑の交流館管理事務	0.6					0.6	0.7
鶴川緑の交流館指定管理者選定事務	0.4					0.4	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7
2024年度 特定事業 合計	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆2025年度は74事業実施し、入場者数は2024年度と比較して472人増加(+2.9%)しました。
- ◆ホールでの演奏会と関連した「オーボエ・ファゴット入門」や「高級蓄音機体験」、「浮世絵摺りワークショップ」などの体験型・参加型事業を、利用率の低い多目的室を活用して実施しました。多目的室の利用率は2024年度と比べて5.5ポイント上昇し、施設全体でも利用率が2.7ポイント上昇しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆当初の提案額に基づき、指定管理委託料は、2024年度から3,614千円減少(△2.2%)しました。
- ◆有名アーティストによるコンサート等の主催事業が好調だったことから、入場料収入は約890千円増加(+5.5%)しました。また、施設利用率が上昇したことから、駐輪場を含む貸出施設の利用料金収入は2024年度から約2,000千円増加(+6.1%)しました。結果、利用料金収入全体では3,134千円増加(+6.3%)しました。
- ◆次期指定期間の指定管理者選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行ったため、事業に関わる人員は2024年度と比べて0.3人増加しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定を工夫する等、入場者数の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆引き続き諸室の特性に応じた利用方法を積極的に提案していく等、利用率の低い諸室の利用率の向上に向けた取り組みが必要です。
- ◆開館13年が経過し、施設設備の経年劣化が進行しているため、計画的な修繕を行う必要があります。
- ◆2025年度に整理した課題や募集方法を踏まえ、次期指定期間の指定管理者を選定する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆過去に人気のあった公演等を開催するとともに、新しいジャンルやアーティストの公演を開催し、新規客層を開拓することで入場者数の向上を図ります。 ◆諸室の特性に応じた利用方法を積極的に提案する等、利用率の低い諸室の利用率向上の取り組みを検討・実施します。◆2027年度からの新たな指定期間の指定管理者選定を行います。	◆経年劣化によって発生する設備修繕について指定管理者や関係部署と連携し、状況把握や優先順位の判断等を計画的に行います。

2025年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。	他自治体の 取り組み等	◆町田市民のスポーツ実施率は75%(2025年度)で、東京都民のスポーツ実施率67.5%(2025年11月)を上回っています。◆町田市立陸上競技場は、都内で2か所しかない、J1リーグライセンスを取得している希少なスタジアムのうちの1つです。◆「まちだサポーターズ」は、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に誕生し、現在も活動を続けている、全国でも例の少ない市民ボランティア団体です。
所管事務	◆スポーツ施設の管理や整備に関すること ◆学校施設等のスポーツ開放に関すること ◆ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア、ASVベスカドーラ町田)の支援に関すること ◆地域スポーツクラブの整備や支援に関すること ◆スポーツ大会の開催支援・スポーツに関する広報等のスポーツ振興に関すること		

2.2024年度末の総括と2025年度末の状況

① 成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆働き盛り・子育て世代の方のスポーツ実施率が特に低い傾向にあるため、スポーツに取り組むきっかけづくりを行っていく必要があります。◆ASVベスカドーラ町田の認知度は58.3%で、FC町田ゼルビアの97.7%と比較的低く、ホームゲーム年間観戦者数をさらに増やすために、一層認知度を向上していく必要があります。◆「まちだサポーターズ」の活動延べ人数は2,625人で、2023年度と比べて約800人減少しており、「まちだサポーターズ」が継続的に活動できる場を提供していく必要があります。◆「(仮称)町田木曽山崎パラアリーナ」の整備に向けて、事業者公募に取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆出張形式のスポーツ教室の実施場所を拡大し、スポーツに取り組めるきっかけづくりをします。◆各ホームタウンチームと協力し、試合情報や活動紹介等のPR活動を継続していきます。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」が、継続して活動を広げられるように支援します。		◆「町田市スポーツ推進計画19-28後期アクションプラン(2024年度~2028年度)」を実行し、多様なスポーツ機会を提供することで、市民のスポーツ実施率及び「する」「みる」「支える」でスポーツに関わる市民の割合向上を目指します。	
取組状況	個別取組	◎ イベント等とコラボした出張形式のスポーツ教室の実施場所を、2024年度の1か所から4か所に拡大しました。	
○	○	○ ホームタウンチーム協力のもと小学生招待を7回実施し、市内でスポーツ観戦をした市民の割合が2024年度から0.5ポイント増加しました。	
	○	○ 各市民センターでのチラシ配布やまちカフェでのブース出展など、「まちだサポーターズ」の取り組みの周知を3回実施しました。	

3.事業の成果

① 成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
週1回以上スポーツをする市民の割合	%	目標	-	-	-	-	70.0	週1回以上スポーツをする市民の割合 ※計画最終年度である2028年度までの達成目標
		実績	63.9	49.2	75	-	(2028年度)	
「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合	%	目標	-	-	-	-	95.0	「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合 ※同上
		実績	92.6	76.2	94.7	-	(2028年度)	
		目標						
		実績						

② 成果指標およびその他成果の説明

◆週1回以上スポーツをする市民の割合が75%となり、目標値を予定より早期に達成しました。◆スポーツをするきっかけづくりを進めるため、新たに防災や文化芸術に関するイベントとコラボしたスポーツ教室を開催しました。◆ホームタウンチームのホームゲーム年間観戦者数は、FC町田ゼルビアが281,598人、ASVベスカドーラ町田が19,391人でした。FC町田ゼルビアの天皇杯優勝やASVベスカドーラ町田の全日本フットサル選手権優勝など、ホームタウンチームの活躍が町田市のシティプロモーションに大きく貢献しました。◆「まちだサポーターズ」の取り組みの周知により、会員が8名増加しました。

4.財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	121,597	137,804	135,535	△ 2,269	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	13,237	11,996	10,780	△ 1,216		保険料	0	0	0	0
	物件費	704,709	718,616	644,275	△ 74,341		国庫支出金	0	0	15,353	15,353
	うち委託料	670,792	663,371	602,793	△ 60,578		都支出金	2,143	13,995	1,966	△ 12,029
	維持補修費	19,613	42,847	58,420	15,573		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	8,264	7,963	5,370	△ 2,593
	補助費等	64,341	57,377	62,813	5,436		その他	5,093	5,111	15,735	10,624
	減価償却費	306,696	304,100	309,094	4,994		行政収入 小計(a)	15,500	27,069	38,424	11,355
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 1,223,075	△ 1,270,179	△ 1,195,753	74,426
	賞与・退職手当引当金繰入額	21,619	36,504	24,040	△ 12,464		分担金差額(d)	△ 1,990	△ 1,904	△ 1,771	133
	行政費用 小計(b)	1,238,575	1,297,248	1,234,177	△ 63,071		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 1,225,065	△ 1,272,083	△ 1,197,524	74,559
	特別費用(g)	0	0	236	236		特別収入(f)	0	0	19,980	19,980
	特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	19,744	19,744		当期収支差額(e)+(h)	△ 1,225,065	△ 1,272,083	△ 1,177,780	94,303

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	総合体育館外3施設指定管理料 268,823千円 室内プール指定管理料 251,409千円 学校温水プール等総合管理業務委託 34,178千円 シャトルバス輸送業務委託料 11,827千円 など	総合体育館 吸収冷温水機修繕 24,497千円 総合体育館 中央監視装置配線修繕 12,980千円 単管ネット・支柱、防球ネット、トイレ等撤去・解体工事(忠生スポーツ広場) 5,801千円 など
主な増減理由	FC町田ゼルビアのホームゲーム時のシャトルバス(町田駅便)について、運行台数の見直しにより、シャトルバス輸送業務委託料が26,166千円減少 など	総合体育館の吸収冷温水機修繕により、19,547千円増加。総合体育館の中央監視装置修繕により、7,260千円増加 など
勘定科目	国庫支出金	都支出金
決算額の主な内訳	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 15,353千円	スポーツ振興等事業費補助金(地域スポーツ推進事業) 1,055千円 スポーツ振興等事業費補助金(パラスポーツ推進事業) 911千円
主な増減理由	総合体育館や室内プールの指定管理料(光熱水費高騰分)に、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当したことにより、15,353千円増加。	総合体育館のメインアリーナ雨水配管改修工事や室内プールの空調機械室建具改修工事が、2024年度中に完了したことにより、11,000千円の減少 など

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				勘定科目			
2024年度末				2025年度末			
A				B			
差額				差額			
B-A				B-A			
流動資産	未収金	0	0	流動負債	102,795	126,156	23,361
	不納欠損引当金	0	0		還付未済金	0	0
	その他の流動資産	0	0		地方債	90,016	86,703
固定資産	有形固定資産	8,187,673	8,010,201	△ 177,472	賞与引当金	12,779	12,813
	土地	2,136,538	2,136,538	0	その他の流動負債	0	26,640
	建物(取得価額)	13,759,076	13,883,192	124,116	固定負債	1,265,941	1,183,196
	建物減価償却累計額	△ 7,844,385	△ 8,134,090	△ 289,705	地方債	1,154,787	1,068,084
	工作物(取得価額)	275,501	275,501	0	退職手当引当金	111,154	115,112
	工作物減価償却累計額	△ 139,057	△ 150,940	△ 11,883	その他の固定負債	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	1,368,736	1,309,352
	インフラ資産	0	0	0	純資産	6,818,937	6,769,201
	土地	0	0	0			
	工作物(取得価額)	0	0	0			
	工作物減価償却累計額	0	0	0			
固定資産	無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計	6,818,937	6,769,201
	建設仮勘定	0	0	0			
	その他の固定資産	0	68,352	68,352	負債及び純資産の部合計	8,187,673	8,078,553
	資産の部合計	8,187,673	8,078,553	△ 109,120			

④貸借対照表の特徴的事項

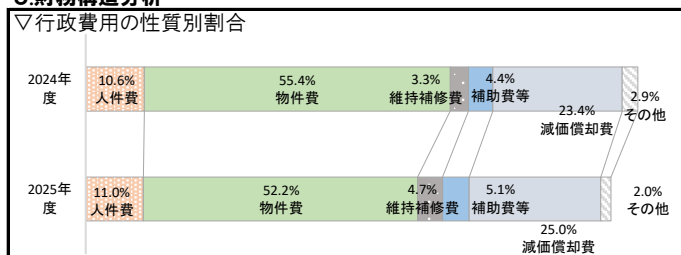
勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	山崎第二スポーツ広場土地 806,105千円 市立総合体育館土地 764,504千円 など	総合体育館建物 6,802,123千円 室内プール建物 6,204,727千円 総合体育館駐車場 590,376千円 など	総合体育館メインアリーナ大型映像装置 117,700千円 木曽中学校校庭照明設備 40,736千円など
主な増減理由	増減なし	総合体育館の外壁他改修工事に 126,951千円増加 など	減価償却により、11,883千円減少。

⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

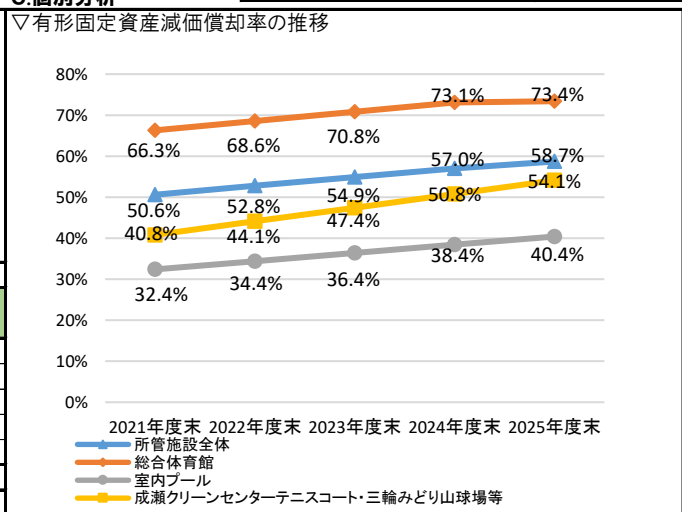
(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	38,423	社会資本整備等投資活動収入	2,197	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	922,862	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	116,656
行政サービス活動収支差額(a)	△ 884,439	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	2,197	財務活動収支差額(c)	△ 116,656
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 998,898
				一般財源充当調整額	998,898

5.財務構造分析



6.個別分析



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
施設管理及び地域スポーツクラブ支援事務	3.4					3.4	3.8
ホームタウンチーム支援事務	1.3					1.3	1.4
施設整備事務	0.4					0.4	0.4
スポーツ振興事務	9.9			1.0		10.9	11.4
2025年度 歳出目 合計	15.0	0.0	0.0	1.0	0.0	16.0	17.0
2024年度 歳出目 合計	15.0	0.0	0.0	2.0	0.0	17.0	

7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆気軽にスポーツに取り組めるきっかけづくりを進めてきた結果、「週1回以上スポーツをする市民の割合」のうち、「日常生活の延長にある運動」を実施した割合が特に増加しました。◆ホームタウンチームの紹介・試合結果などについて、SNSで272回投稿し、広くPRした結果、SNSの登録者数が126人増加しました。◆「まちだサポーターズ」の取り組みの周知により、様々な方に関心を持ってもらったことで、新規会員8名の増加につながりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆FC町田ゼルビアのJ1昇格を契機に開始した、町田駅ペDESTリアンデッキウォールギャラリーの装飾や広報・ホームページによる周知など、広報事業の充実を引き続き行った結果、町田GIONスタジアムにおける平均観戦者数は、J1昇格以降2シーズン連続で1万人を突破しました。◆職員数が変わり、事業に関わる人員は1.0人減少しましたが、新たにインクルーシブ運動会を実施するなど、障がい者スポーツの充実を図りました。◆行政費用に占める維持補修費の割合は3.3%から4.7%に上昇したものの、適切に施設の修繕を行ったことで、スポーツを「する」市民の増加につながりました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆30歳代、40歳代のスポーツ実施率が特に低い傾向にあるため、スポーツに取り組むきっかけづくりを進めていく必要があります。◆ASVベスカドーラ町田の認知度は58.5%で、FC町田ゼルビアの97.3%と比べ低く、ホームゲーム年間観戦者数増加に向け、一層認知度を向上する必要があります。◆「まちだサポーターズ」の新規会員は増えましたが、活動延べ人数は2,521人で、2024年度比約100人減のため、継続的な活動の場の提供と取り組みの周知を行う必要があります。◆「町田市スポーツ推進計画19-28」の取り組み結果を踏まえ、次期計画の策定を検討していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆出張形式のスポーツ教室を継続的に実施し、気軽にスポーツに取り組むきっかけづくりをします。◆各ホームタウンチームと協力し、試合情報や活動紹介等のPR活動を継続していきます。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」の活動継続と拡大に向け、新規獲得と既存会員への啓発を支援します。	◆「町田市スポーツ推進計画19-28後期アクションプラン(2024年度~2028年度)」を実行し、市民のスポーツ実施率及び「する」「みる」「支える」でスポーツに関わる市民の割合向上を目指します。◆現行計画の取り組み結果や社会環境の変化等を踏まえ、次期計画を策定します。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
特定事業名	体育館事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	町田市立総合体育館の施設と、附属設備の維持管理を適切に行います。 市民が気軽にスポーツに親しめるよう、スポーツを「する」場・「みる」場を提供します。						
基本情報	根拠法令等 町田市スポーツ施設条例						
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立総合体育館	
	利用料金収入（単位:千円）	92,644	95,552	103,564	建設年月日	1990年9月1日	
	受益者負担比率	18.3%	16.6%	17.9%		2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	70.8%	73.1%
						74.1%	

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆安定的な施設の貸出に加え、各種大会や興行、イベントを誘致・開催するなど、施設利用者数の増加に取り組む必要があります。
◆諸室毎の利用率に差があるため、予約のない時間帯を有効に活用し、新規事業を実施するなど、施設利用率の向上を図る必要があります。
◆建築から30年以上が経過し、躯体や諸設備などが老朽化しているため、施設を安全・安心に利用できるよう、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、修繕などを施し、維持保全に努める必要があります。◆大規模改修の実現に向け、設計内容の検討に併せて、関係団体の意見も聴きながら、改修の内容を具体化していきます。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆安定的な施設の貸出に加えて、各種大会や興行・イベントを開催することで、施設利用者数向上を図ります。◆安全・安心な施設の利用やスポーツを「する」場・「みる」場の環境確保に向けて、適宜、修繕などを実施します。◆大規模改修の実現に向け、指定管理者や関係団体と連携・協力しながら、設計を進めることで、改修内容を具体化します。				◆施設の大規模改修を行い、スポーツを「する」場・「みる」場の環境整備を進めます。◆工事期間中のスポーツを「する」場の確保に向けて、関係各所と調整を行います。◆工事期間中は、関係各所やホームタウンチームと連携・協力し、市内のスポーツ施設を代替利用するなど、市民レベルの大会やホームゲームなどの実施に向けた調整に取り組めます。			
取組状況	○	個別取組	◎ 大会誘致や教室事業の開催、トレーニングルームの機器更新などに取り組んだ結果、施設利用者数が10%増加しました。	取組状況	○	個別取組	◎ 中核設備である中央監視装置や空調設備等、諸設備の応急修繕の実施などにより、利用者の安全性や利便性が向上しました。
			◎ 大規模改修に向けて各関係団体から意見収集を行い、指定管理者とも連携・協力しながら基本設計を進めました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設利用者数	人	目標	-	430,000	460,000	490,000	550,000	一般利用者のほか、大会参加者や観客、各種事業参加者を含む
		実績	342,097	371,159	411,393	-	(2028年度)	
施設利用率	%	目標	-	92	93	93	95	メイン及びサブアリーナ・小体育室・武道場・和洋弓場の平均利用率
		実績	93.9	92.5	94.9	-	(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆大会誘致や教室事業の実施、各種設備の機器更新など、積極的に利用者サービスの向上に取り組む、利用者数・利用率が増加しました。
◆躯体や諸設備などが老朽化する中で、中核設備である中央監視装置を修繕したほか、既存の空調の設備などの応急修繕を行い、施設の維持保全に取り組む、安全・安心なスポーツを「する」場・「みる」場を提供しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	5,465	7,399	8,242	843	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	266,609	269,987	249,263	△ 20,724		国庫支出金	0	0	4,418	4,418
	うち委託料	263,461	246,778	246,339	△ 439		都支支出金	0	1,567	0	△ 1,567
	維持補修費	7,336	30,100	42,470	12,370		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	169,003	166,647	171,556	4,909		行政収入 小計(a)	0	1,567	4,418	2,851
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 449,879	△ 475,494	△ 469,271	6,223
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,466	2,928	2,158	△ 770		金融収支差額(d)	△ 44	△ 33	△ 22	11
	行政費用 小計(b)	449,879	477,061	473,689	△ 3,372		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 449,923	△ 475,527	△ 469,293	6,234
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	0	19,980	19,980
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	19,980	19,980	当期収支差額(e)+(h)		△ 449,923	△ 475,527	△ 449,313	26,214

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 244,479千円 室内競技多目的表示システム賃借料 2,924千円 大型映像装置システム保守点検業務委託 1,319千円 など	吸収冷温水機修繕 24,497千円 中央監視装置修繕 12,980千円 メインアリーナ器具庫雨水配管修繕 1,254千円 など
主な増減理由	指定管理料の光熱水費分の減少により、委託料が1,850千円減少。 大型映像装置保守点検を実施したことにより、委託料が1,319千円増加 など	吸収冷温水機の修繕により、19,547千円増加。 中央監視装置の修繕により、7,260千円増加 など
勘定科目	国庫支出金	都支出金
決算額の主な内訳	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 4,418千円	市町村総合交付金 0千円
主な増減理由	総合体育館の指定管理料(光熱水費高騰分)に、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当したことにより、4,418千円増加。	メインアリーナ雨水配管改修工事及び外壁防水他改修工事が2024年度中に完了したことにより、市町村総合交付金が1,567千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
総合体育館利用者1人あたりコスト	人	2025	411,393	1,151	△ 134	施設利用者数が増加したことにより、1人あたりのコストが134円減少しました。
		2024	371,159	1,285	△ 30	
		2023	342,097	1,315	△ 136	
延べ床面積1㎡あたりのコスト	㎡	2025	24,767	19,126	△ 136	物件費の減少により、1㎡あたりのコストが136円減少しました。
		2024	24,767	19,262	1,098	
		2023	24,767	18,164	240	

④貸借対照表

(単位:千円)

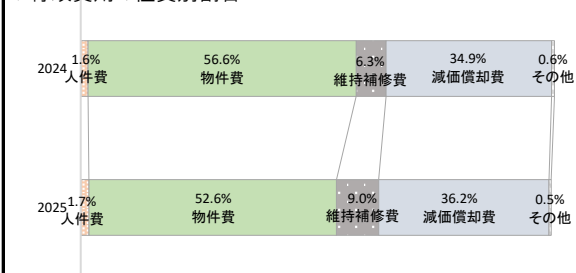
勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	5,213	31,961	26,748	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	4,520	4,531	11	
					賞与引当金	693	790	97	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	2,765,927	2,726,232	△ 39,695	その他の流動負債	0	26,640	26,640
		土地	764,504	764,504	0	固定負債	16,076	12,450	△ 3,626
		建物(取得価額)	7,265,548	7,392,499	126,951	地方債	9,642	5,111	△ 4,531
		建物減価償却累計額	△ 5,344,437	△ 5,503,090	△ 158,653	退職手当引当金	6,434	7,339	905
		工作物(取得価額)	123,121	123,121	0	その他の固定負債	0	0	0
		工作物減価償却累計額	△ 42,809	△ 50,802	△ 7,993	負債の部合計	21,289	44,411	23,122
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	純資産	2,744,638	2,750,173	5,535
		有形固定資産	0	0	0				
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
		工作物減価償却累計額	0	0	0				
		無形固定資産	0	0	0				
	建設仮勘定	0	0	0	純資産の部合計	2,744,638	2,750,173	5,535	
		その他の固定資産	0	68,352					68,352
資産の部合計		2,765,927	2,794,584	28,657	負債及び純資産の部合計	2,765,927	2,794,584	28,657	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	総合体育館土地 764,504千円	総合体育館建物 7,392,499千円	大型映像装置 117,700千円 大型懸垂幕掲出装置 3,224千円 ゆりーとモニュメント時計塔 2,197千円
主な増減理由	増減なし	外壁他改修工事により、126,951千円増加。	減価償却により、7,993千円減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



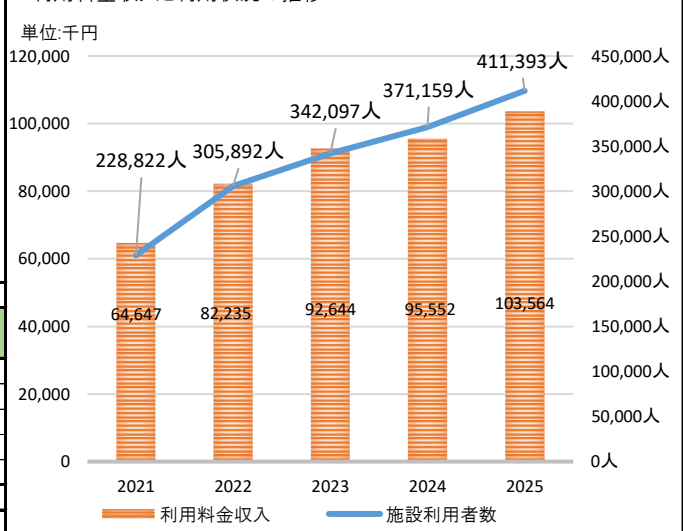
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	総合体育館管理事務	1.0					1.0	0.9
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.9
2024年度 特定事業 合計		0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆2024年度の実績を踏まえながら、大会誘致や教室事業の充実、各種設備の機器更新など、積極的に利用者サービスの向上に取り組んだ結果、目標には達しなかったものの、2024年度に比べ、施設利用者数が40,234人(+10%)増加しました。
- ◆利用料金収入が8,012千円(+8%)増加したことで、指定管理者により自主事業の拡大・充実が図られ、施設利用率が向上しました。
- ◆躯体や諸設備などの老朽化に伴い、緊急対応を要する不具合が生じたことにより、維持補修費は増加しましたが、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、設備の更新や適切に修繕を行うことで、継続して、安全・安心に利用できる環境を提供しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆利用料金収入が8,012千円(+8%)増加したことにより、指定管理者による適切な修繕や各諸室のLED化などが実施され、長期的な管理コストの縮減など、業務の効率化を行いました。
- ◆通常業務に加え、大規模改修に向けた検討などの業務が本格化してきたため、事業に関わる人員が増加しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆安定的な施設の貸出に加え、各種大会や興行、イベントの誘致・開催、新規教室事業など、施設利用者数の増加に取り組む必要があります。
- ◆建築から35年以上が経過し、躯体や諸設備などが老朽化しているため、施設を安全・安心に利用できるよう、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、修繕などを施し、維持保全を行う必要があります。
- ◆大規模改修に向け、設計内容を具体化するとともに、市民のスポーツを「する」場の代替場所を確保する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆安定的な施設の貸出に加えて、各種大会や興行・イベント、教室事業を開催することで、施設利用者数の向上を図ります。◆安全・安心な施設の利用のため、適宜、修繕などを実施します。◆大規模改修に向け、基本・実施設計を進め、工事に着手します。◆工事期間中のスポーツを「する」場の確保に向けて、関係各所と調整を行います。	◆施設の大規模改修を行い、スポーツを「する」場・「みる」場の環境整備を進めます。◆市内外のスポーツ施設などを代替利用することで、市民利用やホームタウンチームの試合などのスポーツを「する」場・「みる」場を工事期間中も継続して提供します。◆大規模改修後のリニューアルオープンに向け、経年劣化している貸出備品の更新などの検討を行います。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
特定事業名	室内プール事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	室内プール(温浴施設を含む)の運営及び維持管理を適切に行い、市民が気軽にスポーツに親しみ、楽しむ場を提供します。						
基本情報	根拠法令等 町田市スポーツ施設条例						
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立室内プール	
	利用料金収入 (単位:千円)	79,189	86,704	89,272	建設年月日	1989年10月1日	
	受益者負担比率	16.4%	16.7%	17.1%		2023年度	2024年度
					有形固定資産減価償却率	36.4%	38.4%
						2025年度	40.4%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆魅力ある事業やイベントなどを実施するとともに、新たな利用者やリピーターの獲得に向けて、他施設や地域団体などと連携・協力しながら、事業を展開するなど、地域に根差した施設運営を行う必要があります。
- ◆より多くの方に、施設を利用してもらえるよう、利用者ニーズに沿った取り組みを積極的に企画・実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
◆新規利用者やリピーターの獲得に向けて、他施設や地域団体などと連携した事業を展開するなど、地域に根差した施設運営に取り組みます。				◆地域に根差した施設を目指し、地域団体をはじめ、他の公共施設とも連携・協力しながら、市民のスポーツ推進に取り組みます。			
◆指定管理者と連携・協力しながら、施設内の各諸室の有効活用に向けて、利用者ニーズに沿った取り組みを企画・実施します。				◆2018年度から2019年度にかけて実施した、大規模改修工事から5年以上が経過するため、計画的に小・中規模の改修工事を行います。			
取組状況	○	個別取組	◎ 教室事業の充実のほか、地域イベントなどで、積極的に施設の周知活動に取り組んだ結果、施設利用者数が6%増加しました。	○	個別取組	◎ 不具合箇所の早期発見に取り組むとともに、指定管理者と連携して、適宜、応急修繕を実施し、安全で快適な環境を維持しました。	○
			◎ 利用者ニーズを踏まえ、教室事業の予約を一部オンライン化するなど、利用者サービスの向上に向けた取り組みを行いました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設利用者数	人	目標	225,410	283,670	295,215	316,160	316,160	プール、トレーニング室、浴室等の利用者数・大会参加者や事業の参加人数
		実績	262,811	290,596	309,961	-	(2026年度)	
自主事業参加者数	人	目標	24,667	30,736	37,589	42,167	42,167	施設を有効に活用するために実施する自主事業の参加人数
		実績	31,193	36,852	41,340	-	(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆教室事業やイベント内容などの充実に加え、SNSなどで積極的に施設の周知活動を行ったことにより、施設利用者数は1989年の開館以来最多を2年連続で更新する、309,961人を記録しました。
- ◆自主事業参加者数は、人気のある教室事業を継続して実施するとともに、多目的室・会議室を活用した、卓球体験会、健康麻雀等のイベントを実施した結果、目標値を3,751人(+9%)上回りました。また、2024年度に比べて、4,488人(+12%)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	3,412	5,823	3,705	△ 2,118	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	289,461	277,700	279,111	1,411		国庫支出金	0	0	10,934	10,934
	うち委託料	270,522	256,845	251,409	△ 5,436		都支支出金	0	9,433	0	△ 9,433
	維持補修費	1,980	4,693	8,080	3,387		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	12	0	3,649	3,649
	減価償却費	123,891	123,891	124,095	204		行政収入 小計(a)	12	9,433	14,583	5,150
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 419,692	△ 405,749	△ 400,763	4,986
	賞与・退職手当引当金繰入額	960	3,075	355	△ 2,720		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	419,704	415,182	415,346	164		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 419,692	△ 405,749	△ 400,763	4,986
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	0	1,556	1,556
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	1,556	1,556	当期収支差額(e)+(h)		△ 419,692	△ 405,749	△ 399,207	6,542

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 251,409千円 施設利用者駐車場用地賃借料 11,523千円 レーンロープ購入 6,298千円 など	プール50mろ過器機械室建具及び内壁改修工事 5,082千円 プール屋外テラス改修工事 2,998千円
主な増減理由	50mプール用のレーンロープを購入したことにより、備品購入費が6,298千円増加。指定管理料の光熱水費分の減少により、委託料が5,436千円減少 など	プール50mろ過器機械室建具及び内壁改修工事により、5,082千円増加。プール屋外テラス改修工事により、2,998千円増加 など
勘定科目	国庫支出金	都支出金
決算額の主な内訳	物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金 10,934千円	市町村総合交付金 0千円
主な増減理由	室内プールの指定管理料(光熱水費高騰分)に、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を充当したことにより、10,934千円増加。	室内プール空調機械室建具改修工事が、2024年度中に完了したことにより、9,433千円減少。

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
室内プール及び温浴施設 棟利用者1人あたりコスト	人	2025	309,961	1,340	△ 89	施設利用者が増加したことにより、1人あたりのコストが89円減少しました。
		2024	290,596	1,429	△ 168	
		2023	262,811	1,597	△ 469	
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	10,239	40,565	16	維持補修費が増加したことにより、1㎡あたりのコストが16円増加しました。
		2024	10,239	40,549	△ 442	
		2023	10,239	40,991	△ 1,043	

④貸借対照表

(単位:千円)

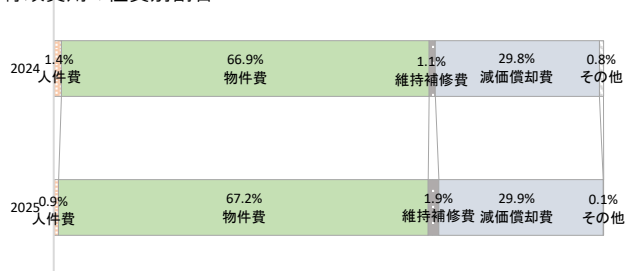
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0		0	0	流動負債		63,178		63,048		△ 130	
	不納欠損引当金		0		0	0	還付未済金		0		0		0	
	その他の流動資産		0		0	0	地方債		62,633		62,693		60	
							賞与引当金		545		355		△ 190	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		3,965,216		3,841,121	△ 124,095	その他の流動負債		0		0		0
		土地		139,685		139,685	0	固定負債		876,010		811,553		△ 64,457
		建物(取得価額)		6,204,727		6,204,727	0	地方債		870,947		808,254		△ 62,693
		建物減価償却累計額		△ 2,379,196		△ 2,503,291	△ 124,095	退職手当引当金		5,063		3,299		△ 1,764
		工作物(取得価額)		0		0	0	その他の固定負債		0		0		0
		工作物減価償却累計額		0		0	0	負債の部合計		939,188		874,601		△ 64,587
	インフラ資産	無形固定資産		0		0	0	純資産		3,026,028		2,966,520		△ 59,508
		有形固定資産		0		0	0							
		土地		0		0	0							
		工作物(取得価額)		0		0	0							
		工作物減価償却累計額		0		0	0							
建設仮勘定		0		0	0									
その他の固定資産		0		0	0	純資産の部合計		3,026,028		2,966,520		△ 59,508		
資産の部合計			3,965,216		3,841,121	△ 124,095	負債及び純資産の部合計		3,965,216		3,841,121		△ 124,095	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	室内プール土地 139,685千円	室内プール建物 5,099,867千円 健康増進温浴施設建物 1,076,092千円 室内プールのトップライト排煙窓 28,768千円	特になし
主な増減理由	増減なし	減価償却により、124,095千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



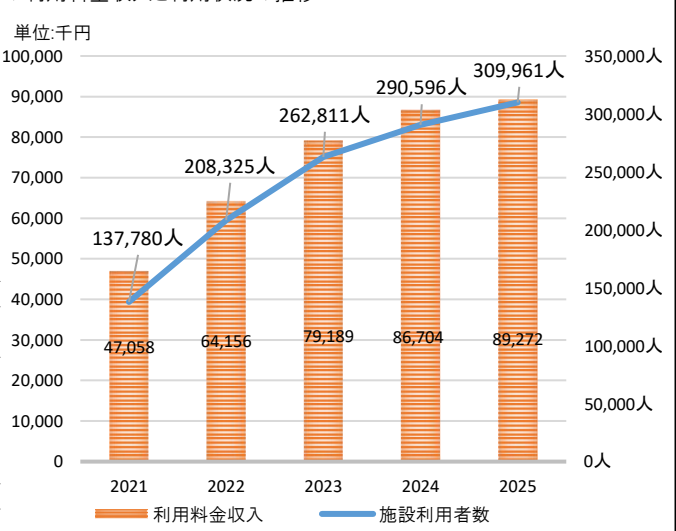
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	室内プール管理事務	0.4					0.4	0.7
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7
2024年度 特定事業 合計		0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆SNSやホームページによる情報発信に加え、近隣の小学校や公園などで実施したイベントで、施設のPRやニュースポーツの普及活動を実施しました。こうした取組により、施設利用者数は2024年度から19,365人(+6%)となりました。
◆施設の日常点検による不具合の早期発見と、指定管理者と連携した応急修繕に加え、関係部署と連携した計画的な修繕を実施し、安全・安心な利用環境を維持しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆プールにおける人気泳技教室の拡充や、温浴施設での替わり湯の充実、休憩室への貸しコミック設置など、利用者ニーズに沿ったサービスの向上策に取り組みました。その結果、利用者数の増加に伴い、利用料金収入は2024年度比で、2,568千円(+3%)増加しました。
◆事務文書の電子化など、業務の効率化を推進したため、事業にかかわる人員が0.3人減少しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆新規利用者やピーターの獲得に向けて、利用者ニーズに沿った魅力ある事業・イベントを実施するとともに、他施設や地域団体などと連携・協力しながら、事業を展開するなど、地域に根差した施設運営を行う必要があります。◆自主事業参加者数は毎年度増加し、施設全体の利用は進んでいるものの、利用率の低い多目的室については、利用者のニーズに即した取り組みを企画・実施していく必要があります。◆プール事業の集約に向け、指定管理者と連携・協力して、夏期事業の充実や新規事業の創出等に取り組むことで、市民へのスポーツをする場の提供と利用者サービスの向上を図る必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆新規利用者やピーターの獲得に向けて、他施設や地域団体などと連携した事業を展開するなど、地域に根差した施設運営に取り組めます。◆指定管理者と連携・協力しながら、これまでの運営で得られた知見に基づき、ニーズに沿った取組を企画・実施し、各諸室の有効活用を図ります。◆プール事業の集約に向け、高齢者向けや子ども向け事業の創設・充実に取り組めます。	◆地域に根差した施設を目指し、地域団体をはじめ、他の公共施設とも連携・協力しながら、市民のスポーツ推進に取り組めます。◆2018年度から2019年度にかけて実施した、大規模改修工事から5年以上が経過するため、計画的に小・中規模の改修工事を行います。◆温浴施設の、快適な利用環境を維持するため、計画的な設備の点検および修繕を進めていきます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
特定事業名	屋外スポーツ施設事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	成瀬クリーンセンターテニスコート、三輪みどり山球場、緑ヶ丘グラウンドの施設及び附属設備の維持管理を適正に行い、市民が気軽にスポーツを楽しむ場を提供します。
------	---

基本情報	根拠法令等	町田市スポーツ施設条例						
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	—		
	利用料金収入 (単位:千円)	28,318	29,484	29,964	建設年月日	—		
	受益者負担比率	30.2%	36.9%	39.2%		2023年度	2024年度	2025年度
					有形固定資産減価償却率	47.4%	50.8%	54.1%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートは、建物の屋上に位置しているため、熱中症対策など、安全・安心に利用できる環境づくりに取り組む必要があります。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、予約のない時間帯の有効活用に向けた事業を展開するなど、利用者数の増加に取り組む必要があります。
- ◆三輪みどり山球場では、利用者のニーズに沿った新たな事業を企画・実施し、特に平日日中の利用率の向上に取り組む必要があります。
- ◆各屋外スポーツ施設では、効率的かつ効果的な管理を行いながら、安定的な施設運営に向けて、適切に修繕などを行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)					中長期的な取り組み(3～5年)			
◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、施設の特性に応じ、安全・安心に利用できる環境づくりに取り組みます。◆緑ヶ丘グラウンドでは、利用者ニーズを踏まえ、予約のない時間帯の有効活用に取り組めます。◆三輪みどり山球場では、利用者のニーズに沿った新たな事業の企画・実施により、平日日中の利用率向上に取り組めます。					◆市民が長きにわたり、スポーツに親しみ、楽しむことが出来るよう、適切に施設の修繕を行うとともに、各屋外スポーツ施設の特性を活かしたイベントや利用者ニーズを踏まえた教室、イベントなどを企画・実施し、利用者数及び利用率の向上に取り組めます。			
取組状況	◎	個別取組	◎	成瀬クリーンセンターテニスコートでは、クラブハウス内の空調設備更新など利用環境の整備に取り組み、高い利用率を維持しました。				
			◎	緑ヶ丘グラウンドでは、地域のニーズに沿った事業を展開した結果、利用者数が1,749人(+9.7%)増加しました。				
			◎	三輪みどり山球場では、ピッチングマシンの貸出や開放利用など利用者サービスの向上に取り組む、利用率が6.3ポイント増加しました。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
成瀬クリーンセンターテニスコート利用率	%	目標	—	95	96	96	97	荒天などの貸出不可の場合を除きます。
		実績	89.3	95.0	95.6		(2028年度)	
緑ヶ丘グラウンド利用率	%	目標	—	75	76	77	80	荒天などの貸出不可の場合を除きます。
		実績	79.7	88.3	83.7		(2028年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートは、空調設備更新など利用者サービス向上に取り組む、高い利用率を維持しました。
- ◆緑ヶ丘グラウンドは、猛暑による夏季期間中の教室事業中止などにより利用率が低下しましたが、目標値を達成しました。また、近隣花火大会時の無料開放など地域のニーズに沿った取り組みを行い、施設の認知度向上など、スポーツに親しむことができる環境を提供しました。
- ◆三輪みどり山球場は、ピッチングマシンの貸出や開放利用など、利用者サービスの向上に取り組む、利用率が向上しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	2,498	2,624	2,603	△ 21	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	27,914	28,204	27,149	△ 1,055		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	26,068	26,292	25,305	△ 987		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	7,942	7,423	1,870	△ 5,553		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	3,240	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	7,121	7,121	7,121	0		行政収入 小計(a)	0	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 48,934	△ 45,925	△ 39,175	6,750
	賞与・退職手当引当金繰入額	219	553	432	△ 121		金融収支差額 (d)	△ 7	△ 6	△ 5	1
	行政費用 小計 (b)	48,934	45,925	39,175	△ 6,750		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 48,941	△ 45,931	△ 39,180	6,751
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 (f)	487	0	0	0		
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	487	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 48,454	△ 45,931	△ 39,180	6,751		

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 24,344千円 成瀬クリーンセンターテニスコート駐車場精算機賃賃借料 1,820千円 など	三輪みどり山球場散水設備用ポンプ修繕 1,870千円
主な増減理由	草刈など植栽管理の実施件数が減少したことにより、委託料が886千円減少 など	施設修繕件数が減少したことにより、5,553千円の減少。
勘定科目	特になし	特になし
決算額の主な内訳		
主な増減理由		

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2025	147,108	266	△ 57	施設利用者数が増加したことにより、一人あたりコストが57円減少しました。
		2024	142,190	323	△ 51	
		2023	130,930	374	57	
		2025				
		2024				
		2023				

④貸借対照表

(単位:千円)

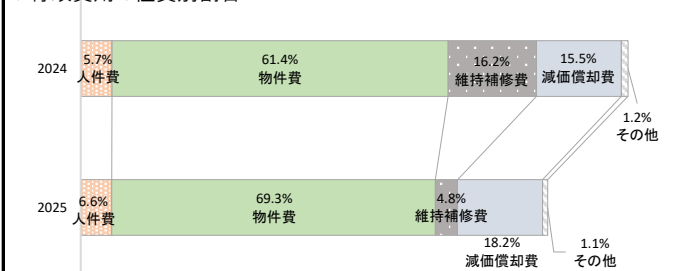
勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,370	2,374	4
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	2,124	2,125	1
固定資産	有形固定資産	105,514	98,393	△ 7,121	賞与引当金	246	249	3
	土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	107,247	107,247	0	固定負債	12,913	10,825	△ 2,088
	建物減価償却累計額	△ 56,990	△ 60,378	△ 3,388	地方債	10,631	8,507	△ 2,124
	工作物(取得価額)	107,016	107,016	0	退職手当引当金	2,282	2,318	36
	工作物減価償却累計額	△ 51,759	△ 55,492	△ 3,733	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	15,283	13,199	△ 2,084
	インフラ資産	0	0	0	純資産	90,231	85,194	△ 5,037
	土地	0	0	0				
	工作物(取得価額)	0	0	0				
	工作物減価償却累計額	0	0	0				
インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	純資産の部合計	90,231	85,194	△ 5,037
	建設仮勘定	0	0	0	負債及び純資産の部合計	180,462	170,388	△ 10,074
	その他の固定資産	0	0	0				
	資産の部合計	105,514	98,393	△ 7,121				

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	テニスコート管理棟 53,300千円 緑ヶ丘グラウンド倉庫 37,017千円 など	緑ヶ丘グラウンド(機械) 32,553千円 テニスコート照明設備 22,746千円 など	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,388千円の減少。	減価償却により、3,733千円の減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



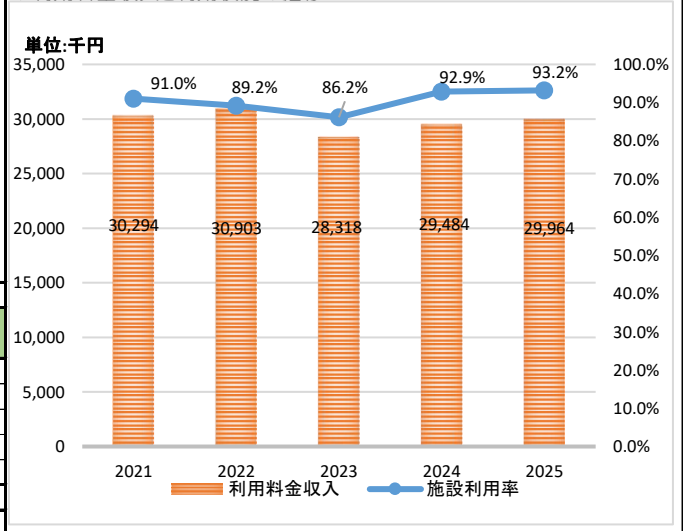
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
屋外スポーツ施設管理事務	0.3					0.3	0.3
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3
2024年度 特定事業 合計	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、利用環境の改善のため、クラブハウス内の空調設備更新及び女子トイレの洋式化といった施設整備や、大会に合わせた練習会を行うなど、利用者サービスの向上を図った結果、2024年度に比べて、施設利用率は0.6ポイント増加しました。◆緑ヶ丘グラウンドでは、施設の有効活用及び地域のニーズに沿った取り組みとして、ボール遊び開放や近隣花火大会時の無料開放を実施するとともに、SNSによる情報発信を行うなど、利用者サービスの向上策を実施した結果、施設利用者数が1,749人(+9.7%)増加しました。◆三輪みどり山球場では、ピッチングマシンの貸出など、利用者サービス向上に取り組んだ結果、施設利用率が2024年度に比べて、6.3ポイント増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆各施設の植栽管理や三輪みどり山球場の散水設備の修繕に加え、指定管理者と連携して、適宜、応急修繕を実施し、長期的な管理コストの縮減や業務フローの改善など、業務の効率化を行いました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆成瀬クリーンセンターテニスコートは、建物の屋上に位置しているため、熱中症対策など、引き続き安全・安心に利用できる環境づくりに取り組む必要があります。
◆緑ヶ丘グラウンドでは、予約のない時間帯の有効活用に向けた事業を展開するなど、利用率の向上に取り組む必要があります。
◆三輪みどり山球場では、利用者のニーズに沿った事業の実施など、引き続き利用率の向上に取り組む必要があります。
◆各屋外スポーツ施設では、効率的かつ効果的な管理を行いながら、安定的な施設運営に向けて、適切に修繕などを行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、施設の特性に応じ、安全・安心に利用できる環境づくりに取り組みます。◆緑ヶ丘グラウンドでは、利用者ニーズを踏まえ、予約のない時間帯の有効活用を行い、利用率向上に取り組めます。◆三輪みどり山球場では、利用者のニーズに沿った事業の企画・実施により、利用率向上に取り組めます。	◆市民が長きにわたり、スポーツに親しみ、楽しむことが出来るよう、計画的に施設の修繕を行うとともに、各屋外スポーツ施設の特性を活かしたイベントや利用者ニーズを踏まえた教室、イベントなどを企画・実施し、利用者数及び利用率の向上に取り組めます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
特定事業名	学校施設開放事業		事業類型	1:施設運営受益者負担型	

1.事業概要

事業目的	市立小中学校の校庭、体育館、夏期学校プール開放、木曽中学校夜間照明設備、中学校温水プール(町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校)を夜間や休日など、学校の授業や部活動で使用していない時間帯を市民に開放し、市民のスポーツ活動を推進します。							
基本情報	根拠法令等 町田市立学校施設の開放に関する条例							
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	—		
	利用料金収入 (単位:千円)	8,264	7,963	5,370	建設年月日	—		
	受益者負担比率	13.0%	10.5%	9.3%		2023年度	2024年度	2025年度
					有形固定資産減価償却率	100.0%	100.0%	100.0%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、利用環境を整備していく必要があります。
- ◆「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく、学校統廃合に伴い、施設の利用や備品の管理など、学校や利用団体と調整を進めていく必要があります。
- ◆学校温水プール開放事業は、安全・安心に利用できる環境を整えつつ、利用者のニーズに沿った取り組みを実施していく必要があります。
- ◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業を定着させ、安定的に運営していく必要があります。
- ◆学校統合及び建て替えに伴う調整や体育館空調費の徴収業務の増加に対応するため、効率化に向けて取り組む必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
取組状況	○	◆学校開放事業は、既存校における利用環境の整備に併せ、学校統合及び建て替えに伴う施設の利用調整や備品管理などに取り組めます。	◆地域活用型学校の推進に向けて、新たな学校活用の仕組みの構築に取り組めます。
	○	◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業の利用者数の増加に向けて、周知活動や事業の質の向上を図りながら、子どものスポーツを「する」場の確保や居場所づくりに取り組めます。	◆既存の屋内公共プールを活用した事業を展開することで、安定的かつ継続的に、子どものスポーツ推進を図ります。
	○	○学校開放事業では、既存校への物品支給や、学校統合に伴う団体間の利用調整などを行うことで、利用環境を整備しました。	○学校温水プール事業では、継続的に無料レッスンを行うなど、利用者増加に向けた取り組みをしました。
		○夏期プール開放事業では、泳法教室のほか、スポーツ体験会を実施し、子どものスポーツを「する」場づくりに取り組みました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
学校温水プール利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	学校温水プールの利用者数
		実績	25,846	25,321	16,375			
木曽中学校夜間照明設備利用率	%	目標	-	-	-	-	-	木曽中学校夜間照明設備の利用率
		実績	95.1	94.1	92.5			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆学校温水プールの利用者数は、町田第一中学校、鶴川中学校の改修工事に伴う休館により、2024年度に比べ、減少しました。
- ◆木曽中学校夜間照明設備の利用率は、2024年度に引き続き、高い利用率を維持しています。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	6,707	13,951	10,732	△ 3,219	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	56,127	54,252	44,429	△ 9,823		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	53,346	51,563	39,140	△ 12,423		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	0		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	8,264	7,963	5,370	△ 2,593
	補助費等	160	227	173	△ 54		その他	351	364	352	△ 12
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	8,615	8,327	5,722	△ 2,605
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 54,973	△ 67,555	△ 51,777	15,778
	賞与・退職手当引当金繰入額	594	7,452	2,165	△ 5,287		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	63,588	75,882	57,499	△ 18,383		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 54,973	△ 67,555	△ 51,777	15,778
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	672	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	672	0	0	0		当期収支差額 (e)+(h)	△ 54,301	△ 67,555	△ 51,777	15,778

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	使用料及手数料
決算額の主な内訳	学校温水プール等総合管理業務委託 34,178千円 中学校温水プール(鶴川中・南中)券売機賃貸借 2,746千円 夏期プール開放事業受付及び監視業務等委託 1,999千円 など	学校温水プール施設使用料 4,898千円 木曽中学校夜間照明設備使用料 471千円
主な増減理由	町田第一中学校、鶴川中学校の温水プール改修工事に伴う休館により、委託料が8,922千円減少 など	町田第一中学校、鶴川中学校の温水プール改修工事に伴う休館により、学校温水プール利用者が減少したため、使用料が2,593千円減少。
勘定科目		
決算額の主な内訳	特になし	特になし
主な増減理由		

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2025	481,463	119	△ 26	学校温水プールの改修工事に伴い、開放日数が減ったことで、委託料が減少したため、1人あたりのコストが26円減少しました。
		2024	521,567	145	20	
		2023	508,478	125	△ 22	
開放1日あたりコスト	日	2025	17,016	3,379	△ 1,010	学校温水プールの改修工事に伴い、開放日数が減ったことで、委託料が減少したため、1日あたりのコストが1,010円減少しました。
		2024	17,289	4,389	835	
		2023	17,894	3,554	△ 462	

④貸借対照表

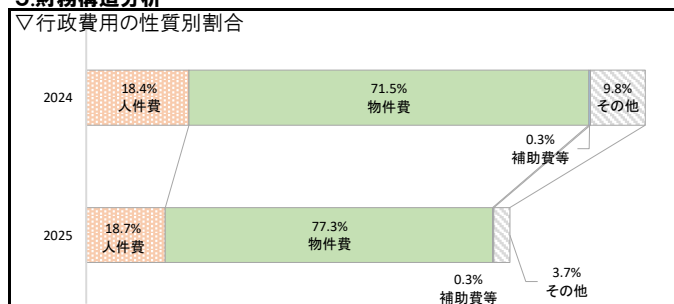
(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0		0	0	流動負債		1,304		1,057		△ 247	
	不納欠損引当金		0		0	0	還付未済金		0		0		0	
	その他の流動資産		0		0	0	地方債		0		0		0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0		0	賞与引当金		1,304		1,057		△ 247	
		土地		0		0	その他の流動負債		0		0		0	
		建物(取得価額)		4,944		4,944	0	固定負債		9,334		9,822		488
		建物減価償却累計額		△ 4,944		△ 4,944	0	地方債		0		0		0
		工作物(取得価額)		40,376		40,376	0	退職手当引当金		9,334		9,822		488
		工作物減価償却累計額		△ 40,376		△ 40,376	0	その他の固定負債		0		0		0
	インフラ資産	無形固定資産		0		0	負債の部合計		10,638		10,879		241	
		有形固定資産		0		0	純資産		△ 10,638		△ 10,879		△ 241	
		土地		0		0								
		工作物(取得価額)		0		0								
		工作物減価償却累計額		0		0								
建設仮勘定	無形固定資産		0		0									
	建設仮勘定		0		0	0	純資産の部合計		△ 10,638		△ 10,879		△ 241	
	その他の固定資産		0		0	0	負債及び純資産の部合計		0		0		0	
資産の部合計				0		0	負債及び純資産の部合計				0		0	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	木曽中学校校庭開放管理棟 4,944千円	木曽中学校照明設備 40,376千円	特になし
主な増減理由	増減なし	増減なし	

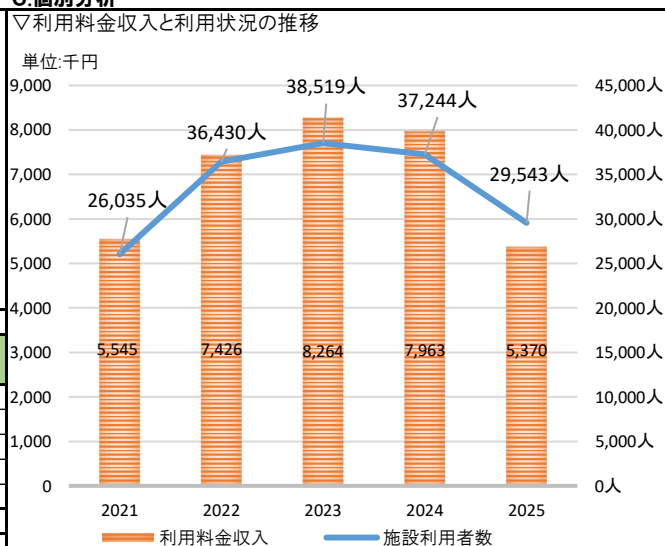
5.財務構造分析



▽事業に関わる人員

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	学校施設開放事務	0.9					0.9	1.3
	夜間校庭開放事務	0.2					0.2	0.2
	学校温水プール開放事務	0.3					0.3	0.6
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	2.1
2024年度 特定事業 合計		1.3	0.0	0.0	0.8	0.0	2.1	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく、学校統合に伴い、施設の利用や備品の管理など、学校や利用団体と調整を進め、スポーツを「する」環境を整備しました。
- ◆木曽中学校夜間照明設備の利用率は、2024年度に比べ1.6ポイント減少したものの、高い利用率を維持しています。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆学校温水プール開放事業では、町田第一中学校及び鶴川中学校の温水プールの改修工事に伴う休館により、2024年度に比べて、利用者数が8,946人(△35%)、委託料が8,922千円(△21%)減少しました。
- ◆学校施設開放事業のうち、体育館空調費の徴収業務について、定型業務の手順を見直し、効率化を進めたことで、事業に関わる人員が0.7人減少しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆「町田市新たな学校づくり推進計画」に基づく、学校統合に伴い、施設の利用方法や備品の管理など、学校や利用団体と調整を進めていく必要があります。
- ◆学校温水プール開放事業は、プール事業の見直しに伴う、市立室内プールへの集約に向けて、利用者への周知を図るとともに、市内のスポーツ施設等の「スポーツを『する場』」の案内などを丁寧に行っていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆学校統合に伴う施設の利用調整や備品管理などに取り組みます。◆プール事業の見直しに伴い、市立室内プールの指定管理者と連携・協力し、高齢者向けや子ども向け事業を創設するなど、ソフト事業を充実させ、安定的かつ継続的なスポーツをする場の提供に取り組みます。	◆地域活用型学校の推進に向けて、新たな学校活用の仕組みの構築及び周知に取り組みます。◆市内のスポーツ施設や学校施設を活用し、身近な場所で市民が安定的にスポーツに親しめる機会の創出に取り組みます。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
特定事業名	スポーツ広場事業			事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的 地域住民のスポーツ振興及び健康増進のため、町内会・自治会、スポーツ団体等が、未使用の市有地又は民有地などをスポーツ広場として暫定利用する際に、市が必要な支援を行うものです。

基本情報	根拠法令等				施設の名称	スポーツ広場(20箇所)		
		2023年度	2024年度	2025年度	建設年月日	-		
						2023年度	2024年度	2025年度
					有形固定資産減価償却率	86.3%	76.0%	71.3%

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆市民が気軽にスポーツ広場を利用できるよう、関係団体と調整し、市民に向けて情報を提供していく必要があります。
- ◆市民のスポーツ実施率向上のため、様々な媒体でスポーツ広場の情報を周知する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を提供します。		◆市有地(中小規模)や、民有地スポーツ広場については、市民がスポーツ広場を気軽に利用できるよう、各スポーツ広場の利用時間や利用方法等を公開していきます。	
◆スポーツマップや市HPへスポーツ広場の情報を掲載し、周知を図ります。			

取組状況	個別取組	○管理運営委員会や利用団体へヒアリングを行い、多くの市民が広場を利用できるよう、情報を提供しました。
	○	○スポーツマップの改訂や市HPの更新を行い、スポーツ広場の情報を広く周知しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
スポーツ広場団体利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	スポーツ広場の団体利用者数
		実績	221,926	203,333	204,585			
		目標						
		実績						

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆スポーツ広場2か所が閉鎖となりましたが、他のスポーツ広場などの利用調整を進め、利用団体が継続して活動できるよう取り組みました。
- ◆既存のスポーツ広場においては、市が新規利用希望団体と管理運営委員会の利用調整を進めました。
- ◆2025年度の利用者数は2024年度に比べ、1,252人(+0.6%)増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	2,725	3,762	5,184	1,422	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	4,137	4,115	3,165	△ 950		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	1,700	1,646	903	△ 743		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	802	630	6,001	5,371		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	106	0	△ 106
	減価償却費	323	323	205	△ 118		行政収入 小計(a)	0	106	0	△ 106
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 8,227	△ 10,554	△ 16,701	△ 6,147
	賞与・退職手当引当金繰入額	240	1,830	2,146	316		金融収支差額 (d)	0	△ 33	△ 31	2
	行政費用 小計 (b)	8,227	10,660	16,701	6,041		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 8,227	△ 10,587	△ 16,732	△ 6,145
	特別費用 (g)	0	0	236	236		特別収入 (f)	1,533	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	1,533	0	△ 236	△ 236		当期収支差額 (e)+(h)	△ 6,694	△ 10,587	△ 16,968	△ 6,381

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	光熱水費 1,247千円 施設原材料費 1,016千円 剪定・除草委託料 800千円 など	解体工事費(忠生スポーツ広場)5,801千円 仮設トイレ修繕(真光寺スポーツ広場)108千円 など
主な増減理由	単管ネット設置委託が終了したことにより、委託料が495千円減少。雨天による利用中止などにより、電気使用量が減少したため、光熱水費が232千円減少 など	忠生スポーツ広場の閉鎖に伴う原状回復のため、撤去・解体工事を行ったことにより、解体工事費が5,801千円増加 など

勘定科目		
決算額の主な内訳	特になし	特になし
主な増減理由		

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
スポーツ広場利用者1人あたりコスト	人	2025	204,585	82	30	スポーツ広場利用者数は増加しましたが、忠生スポーツ広場の閉鎖に伴う原状回復のため、維持補修費が増加したことにより、1人あたりのコストが30円増加しました。
		2024	203,333	52	15	
		2023	221,926	37	△ 17	
スポーツ広場1箇所あたりコスト	箇所	2025	20	835,050	350,505	忠生スポーツ広場の閉鎖に伴う原状回復のため、維持補修費が増加したことにより、1箇所あたりのコストが350,505円増加しました。
		2024	22	484,545	110,590	
		2023	22	373,955	△ 125,318	

④貸借対照表

(単位:千円)

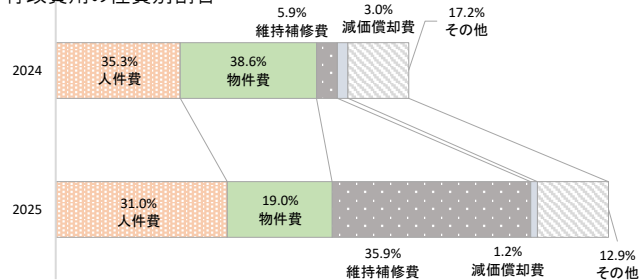
勘定科目		2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	364	498	134	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	999,894	999,453	△ 441	賞与引当金	364	498	134
		土地	998,019	998,019	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	7,824	4,989	△ 2,835	固定負債	3,271	4,627	1,356
		建物減価償却累計額	△ 5,949	△ 3,555	2,394	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	3,271	4,627	1,356
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	3,635	5,125	1,490
		有形固定資産	0	0	0	純資産	996,259	994,328	△ 1,931
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
建設仮勘定	工作物減価償却累計額	0	0	0					
	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計	996,259	994,328	△ 1,931	
資産の部合計		999,894	999,453	△ 441	負債及び純資産の部合計	999,894	999,453	△ 441	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	山崎第二スポーツ広場用地806,105千円 金森中央スポーツ広場用地141,807千円 など	山崎第二スポーツ広場トイレ4,915千円 金森中央スポーツ広場倉庫74千円	特になし
主な増減理由	増減なし	忠生スポーツ広場の閉鎖に伴い、トイレを廃止したことにより、2,835千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



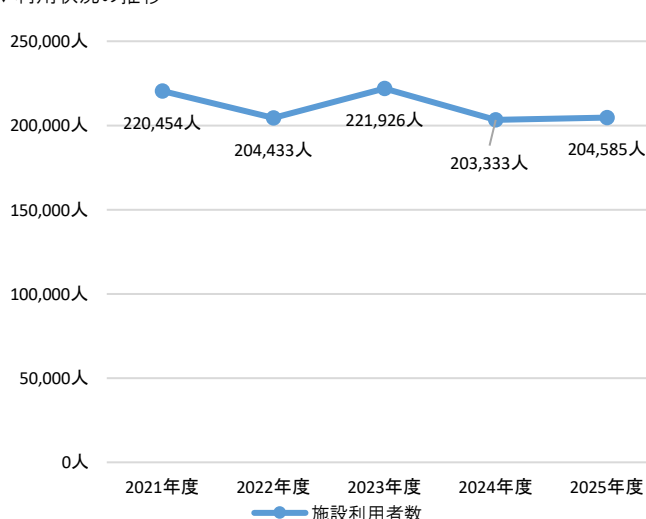
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
						合計	合計
内訳	スポーツ広場事務	0.6				0.6	0.4
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.4
2024年度 特定事業 合計		0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆スポーツ広場の利用を希望するスポーツ団体と、管理運営委員会との利用調整を進めました。
- ◆スポーツ広場の周知のため、スポーツやボール遊びを行うことができる身近な公園や広場等を掲載したスポーツマップの作成・配布を行い、204,585人の利用に繋がりました。
- ◆スポーツ広場の草刈りや、砂や土などの原材料支給を行い、スポーツ広場の環境整備を行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆スポーツ広場の閉鎖に伴い、返還に係る原状回復のための撤去・解体工事が生じたため、維持補修費が630千円から6,001千円に増加しました。また、事業に関わる人員数も0.4人から0.6人に増加し、人件費は3,762千円から5,184千円に増加しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆市民が身近な場所で気軽にスポーツに取り組むことが出来るよう、スポーツ広場の情報を市民に向けて発信していく必要があります。
- ◆幅広い層の市民が情報を得られるよう、多様な媒体を活用してスポーツ広場の周知を図る必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆市民が身近な場所で気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を発信します。 ◆スポーツマップや市HPへスポーツ広場の情報を掲載し、周知を図ります。	◆市民が安全に安心してスポーツ広場を利用できるよう、利用環境の整備を支援していきます。

2025年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	美術館課	歳出目名	美術館費
				事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)

1.組織概要

組織の使命	◆優れた美術作品に触れる機会や創作・発表の場を提供するため、作品の収集・保存・研究、展覧会や教育普及活動、文化振興のための情報発信を行います。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトにより、町田市の魅力やブランド価値の向上を目指します。					取 他 り 自 組 治 体 等 の	◆国際版画美術館は版画に特化した美術館で、鑑賞の他、版画制作や作品展示といった利用も可能です。版画制作を行う工房を開放している公立美術館は、首都圏では当館と横浜美術館のみで、創作活動に資する環境を提供する場として運営しています。◆市所有の工芸作品中、ボヘミアングラスと東南アジア陶磁器のコレクションは国内トップレベルです。				
所管事務	◆美術作品等の収集、保管、展示、講演会等の事業に関すること◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること◆町田市立博物館に関すること◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトに関すること										
	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例										
基本情報		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立国際版画美術館					
	利用料金収入（単位:千円）	22,491	17,315	15,321	建設年月日	1986年8月1日					
	受益者負担比率	6.5%	4.9%	4.4%		2023年度	2024年度	2025年度			
					有形固定資産減価償却率	40.3%	41.4%	35.1%			

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆より多くの方々に芸術に親しむを持ってもらうため、収蔵品を活用した魅力ある展覧会を実施するとともに、様々な方法で情報発信していく必要があります。◆ミュージアムショップ利用者の拡大と利便性向上のために、販売方法を拡充する必要があります。◆(仮称)国際工芸美術館の工事着手前に近隣の方々へ工事説明会を行うなど、丁寧に説明しながら整備工事を進める必要があります。◆“芸術の杜”の実現に向けて、公園や美術館の魅力等を広く発信し、(仮称)国際工芸美術館の開館にあたっては、多くの市民、とりわけ子どもたちに工芸美術の魅力が伝わるような事業を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
取 組 状 況	△	個 別 取 組	○ XおよびInstagramによる情報発信を、目標の380回を上回る397回実施し、国際版画美術館の魅力を発信しました。	◆国際版画美術館の改修工事を計画的に行い、老朽化した施設の改善を図ります。◆改修工事着手前に(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟を完成させ、切れ目なく制作・体験の場を提供します。◆(仮称)国際工芸美術館の開館に向け、学校連携事業を推進します。			
			○ 市民に工芸の魅力を伝えるため、博物館主催の館外出張展示や体験講座、ブース出展等のイベントを78回実施しました。				
			× (仮称)国際工芸美術館の整備工事の入札手続を行いました、契約に至りませんでした。				

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	110,000	93,000	85,000	95,000	95,000	企画展および特集展示の観覧者数の合計
		実績	119,027	105,283	103,246		(2026年度)	
公園利用者が文化芸術に触れたと感じた率	%	目標	-	-	80	82	90	芹ヶ谷公園利用者がFuture Park Labにおいて文化芸術に触れたと感じた割合
		実績	-	-	99		(2029年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆(仮称)国際工芸美術館の工事開始を予定して企画展の開催回数を2回減らしたため、展覧会観覧者数の目標を2024年度よりも少ない85,000人としましたが、魅力的な展覧会を開催し、積極的に情報発信した結果、観覧者数は103,246人となり、目標を18,246人上回りました。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトについて目指す将来像の実現に向けて、機運醸成イベントを実施し、多くの方に公園や美術館の魅力等を伝えることができた結果、公園利用者がFuture Park Labにおいて文化芸術に触れたと感じた割合は、99%となり、目標を上回りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A	勘定科目		2023年度	2024年度 A	2025年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	114,802	116,689	232,129	115,440	行政収入	地方税	0	0	0	0
	うち時間外勤務手当	7,090	5,720	7,538	1,818		保険料	0	0	0	0
	物件費	156,089	144,328	178,796	34,468		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	108,283	107,831	125,182	17,351		都支出金	0	11,612	0	△ 11,612
	維持補修費	5,102	3,882	1,348	△ 2,534		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	22,491	17,316	15,321	△ 1,995
	補助費等	3,954	3,165	4,679	1,514		その他	13,711	9,020	11,029	2,009
	減価償却費	56,285	55,856	56,532	676		行政収入 小計(a)	36,202	37,948	26,350	△ 11,598
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 309,976	△ 313,763	△ 547,358	△ 233,595
	賞与・退職手当引当金繰入額	9,946	27,791	100,224	72,433		金融収支差額 (d)	△ 167	△ 143	△ 119	24
	行政費用 小計 (b)	346,178	351,711	573,708	221,997		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 310,143	△ 313,906	△ 547,477	△ 233,571
	特別費用 (g)	0	0	0	0		特別収入 (f)	10,133	0	0	0
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	10,133	0	0	0		当期収支差額 (e)+(h)	△ 300,010	△ 313,906	△ 547,477	△ 233,571

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	国際版画美術館施設等管理委託料 75,701千円 国際版画美術館光熱水費 19,187千円 博物館施設等管理委託料 15,330千円 など	“芸術の杜”推進事業事業協力謝礼 1,896千円 国際版画美術館講師謝礼 915千円 国際版画美術館事業事業協力謝礼 641千円 など
主な増減理由	博物館管理事業等の移管により委託料が43,359千円増加。版画美術館展覧会回数の減少により委託料が6,994千円減少 など	“芸術の杜”推進事業の移管により事業協力謝礼が1,896千円増加。版画美術館収集委員会開催数の減少により委員謝礼が109千円減少。
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	国際版画美術館自動ドア電装品交換修繕 307千円 博物館消火水槽給水設備修繕 209千円 国際版画美術館私設量水器交換修繕 152千円 など	国際版画美術館物品売払収入 4,188千円 国際版画美術館受託販売手数料 991千円 広告掲載料 205千円 など
主な増減理由	緊急性の高い項目のみ実施したことから施設修繕料が1,946千円減少 など	企画展の観覧者数減少により物品売払収入が1,766千円減少 など

③単位当たりコスト分析

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2025	158,141	2,204	△ 44	入館者の増加により、入館者1人当たりのコストは44円減少しました。
		2024	156,439	2,248	228	
		2023	171,406	2,020	△ 61	
国際版画美術館開館1日あたりコスト	日	2025	306	1,139,007	△ 61,372	単位である開館日の増加や行政コストの維持補修費の減少により、開館日1日当たりのコストは61,372円減少しました。
		2024	293	1,200,379	72,763	
		2023	307	1,127,616	△ 17,940	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金		0		0	0	流動負債		23,425		34,569		11,144	
	不納欠損引当金		0		0	0	還付未済金		0		0		0	
	その他の流動資産		0		0	0	地方債		12,967		12,967		0	
							賞与引当金		10,458		21,602		11,144	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		917,811		861,690	△ 56,121	その他の流動負債		0		0		0
		土地		0		0	0	固定負債		157,477		272,146		114,669
		建物(取得価額)		2,271,421		2,410,421	139,000	地方債		60,375		71,408		11,033
		建物減価償却累計額		△ 1,616,622		△ 1,811,743	△ 195,121	退職手当引当金		97,102		200,738		103,636
		工作物(取得価額)		263,012		263,012	0	その他の固定負債		0		0		0
		工作物減価償却累計額		0		0	0	負債の部合計		180,902		306,715		125,813
	インフラ資産	無形固定資産		0		0	0	純資産		2,465,727		3,471,621		1,005,894
		有形固定資産		0		0	0							
		土地		0		0	0							
		工作物(取得価額)		0		0	0							
工作物減価償却累計額			0		0	0								
	無形固定資産		0		0	0								
	建設仮勘定		0		205,684	205,684								
	その他の固定資産		1,728,818		2,710,962	982,144	純資産の部合計		2,465,727		3,471,621		1,005,894	
	資産の部合計		2,646,629		3,778,336	1,131,707	負債及び純資産の部合計		2,646,629		3,778,336		1,131,707	

⑤貸借対照表の特徴的事項

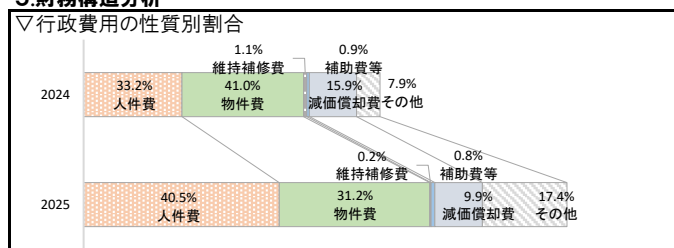
勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	国際版画美術館 2,271,421千円 市立博物館 139,000千円	屋外彫刻4点 263,012千円	国際版画美術館収蔵美術品 1,626,795千円 博物館収蔵美術品 930,055千円 定額運用基金 100,000千円など
主な増減理由	組織改正に伴う博物館の所管替えにより、139,000千円増加。	増減なし	国際版画美術館収蔵美術品が受贈により2,089千円増加。博物館収蔵美術品が組織改正にともない、930,055千円増加 など

⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	26,350	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	24,000
行政サービス活動支出	444,358	社会資本整備等投資活動支出	48,098	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 418,008	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 48,098	財務活動収支差額(c)	11,033
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 455,073
				一般財源充当調整額	455,073

5.財務構造分析

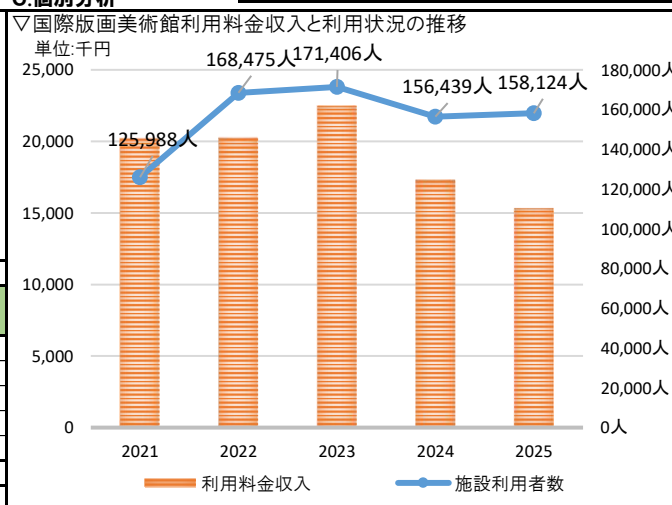


▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
国際版画美術館	14.1			2.4	0.7	17.2	16.8
博物館	5.9				1.3	7.2	0.0
美術館整備	6.0					6.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2025年度 歳出目 合計	26.0	0.0	0.0	2.4	2.0	30.4	16.8
2024年度 歳出目 合計	13.0	1.1	0.0	1.0	1.7	16.8	

6.個別分析



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆展覧会の開催回数や開催日数の減少のため観覧者数の目標を2024年度実績よりも少ない85,000人としましたが、魅力的な展覧会を開催しSNSでの情報発信を行った結果、観覧者数は103,246人となり目標を18,246人(+21.5%)上回りました。◆キャッシュレス決済を導入し利便性向上に努めたことなどにより、受託販売手数料が2024年度より117千円(+13.4%)増加しました。◆Future Park Labやまちだ ガラス&やきもの市の開催など“芸術の杜”の実現に向けた取り組みを行い、機運醸成を図りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆有料展覧会の開催回数や開催日数減少のため観覧料収入は2024年度の10,307千円から8,266千円となり、2,041千円(△19.8%)減少しました。◆緊急性の高い修繕のみ実施したことから、施設修繕料が2024年度の3,294千円から1,348千円となり、1,946千円(△59.1%)減少しました。◆(仮称)国際工芸美術館整備工事において、省エネ法改正などに伴う修正設計を実施した上で工事入札を行いました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆より多くの方々に芸術に親しみを持ってもらうため、収蔵品を活用した魅力ある展覧会を実施するとともに、様々な方法でその魅力について情報発信していく必要があります。◆“芸術の杜”の実現に向けて、公園や美術館の魅力等を広く発信し、(仮称)国際工芸美術館の開館にあたっては、多くの市民、とりわけ子どもたちに工芸美術の魅力が伝わるような事業を実施していく必要があります。◆昨今の物価高騰や技術者不足による入札不調などの社会情勢の変化を踏まえる必要があるため、より実現性の高い事業計画に見直す必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆魅力的な展覧会やイベントの開催を通じ美術を楽しむ人を増やします。◆博物館主催の出張展示や体験講座等のイベントを実施します。◆市民参加型ワークショップや市民意見募集などの機会を設けながら、施設の配置計画や規模等、芦ヶ谷公園“芸術の杜”の全体デザインを再構築します。	◆国際版画美術館の改修工事を行い、老朽化した施設の長寿命化を図ります。◆芦ヶ谷公園“芸術の杜”の実現に向けた整備工事を行います。

2025年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	美術館課	歳出目名	美術館費
特定事業名	博物館事業			事業類型	4:その他型

1.事業概要

事業目的 博物館事業の目的は、価値のある資料を収集・保存し、綿密な調査・研究に基づいた魅力ある展覧会を企画・開催することや、教育普及活動をはじめ関連する諸事業を実施することにより、市民が文化・芸術に親しみ、好奇心を満足させながら教養を高めることができる機会を提供することです。

基本情報	根拠法令等	町田市立博物館条例				
		2023年度	2024年度	2025年度	施設の名称	町田市立博物館
	有形固定資産減価償却率	100.0%	100.0%	100.0%	建設年月日	1973年3月31日

2. 2024年度末の総括と2025年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆(仮称)国際工芸美術館のホームページ上での公開に向けて、工芸美術資料のデータの再確認と整理を行っていく必要があります。
- ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動が完了するまでは、引き続き博物館建物・設備の維持管理に努めます。
- ◆市所有の工芸美術品をPRするため、引き続き他の美術館への積極的な作品貸出を行います。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆(仮称)国際工芸美術館のホームページ上でのデータ公開に向けて、工芸美術資料の収蔵品管理データの再確認と整理を行います。		◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開を実施します。 ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動完了後、建物を解体し、土地を返還します。	
取組状況	○	個別取組	○ 工芸美術資料について、2024年度に寄贈を受けた作品118件の収蔵品管理データへの反映を完了しました。 ○ 市所有の工芸美術品の魅力をPRするため、他の美術館への作品貸出を6回実施しました。 ○ 老朽化した博物館建物・設備については、収蔵品の保管に必要な機能を維持し、適切に管理しました。

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設の修繕費	円	目標	-	-	-			修繕費の年間合計額
		実績	612,040	378,400	209,000			
施設の光熱水費	円	目標	-	-	-			光熱水費の年間合計額
		実績	2,440,494	3,330,103	3,292,828			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆緊急性の高い項目に限定して修繕を実施したため、修繕費が減少しました。
- ◆使用電力量が減少したため、光熱水費が減少しました。
- ◆浜松市美術館と山口県立萩美術館・浦上記念館で「躍動するアジア陶磁―町田市立博物館所蔵の名品から―」展が開催されたほか、渋谷区立松涛美術館、細見美術館、箱根ガラスの森美術館、東京都美術館に博物館の所蔵作品を貸し出しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額	勘定科目		2023年度	2024年度	2025年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	31,283	45,417	44,981	△ 436	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	38,012	45,215	41,144	△ 4,071		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	20,425	26,024	22,819	△ 3,205		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	612	378	209	△ 169		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	240	260	199	△ 61		その他	28	45	40	△ 5
	減価償却費	0	0	0	0		行政収入 小計(a)	28	45	40	△ 5
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 72,927	△ 112,133	△ 90,590	21,543
	賞与・退職手当引当金繰入額	2,808	20,908	4,097	△ 16,811		金融収支差額(d)	0	0	0	0
	行政費用 小計(b)	72,955	112,178	90,630	△ 21,548		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 72,927	△ 112,133	△ 90,590	21,543
特別費用(g)		0	0	0	0	特別収入(f)		0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)		△ 72,927	△ 112,133	△ 90,590	21,543

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	総合管理委託料 15,329千円 用地借上料 12,900千円 新収蔵品図録作成委託料 2,970千円 など	消火水槽給水設備修繕 209千円
主な増減理由	寄贈数の減少により、資料保存箱製作委託料が5,376千円減少 など	緊急性の高い項目に限定して修繕を実施したため、169千円減少。
勘定科目	補助費等	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	博物館資料収集委員会委員謝礼 109千円 寄贈資料評価謝礼 60千円 など	物品売払収入 37千円 古紙売払代 3千円
主な増減理由	所蔵作品修復計画策定終了のため、協力謝礼が60千円減少 など	図書等販売代減少のため、物品売払収入が6千円減少 など

③単位当たりコスト分析

※単位当たりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位当たりコスト	対前年度	単位当たりコストの増減理由
延床面積1㎡あたりコスト	㎡	2025	1,413	64,140	△ 15,250	行政費用が21,548千円減少したことにより、2024年度に比べて15,250円減少しました。
		2024	1,413	79,390	27,759	
		2023	1,413	51,631	△ 10,004	
		2025				
		2024				
		2023				

④貸借対照表

(単位:千円)

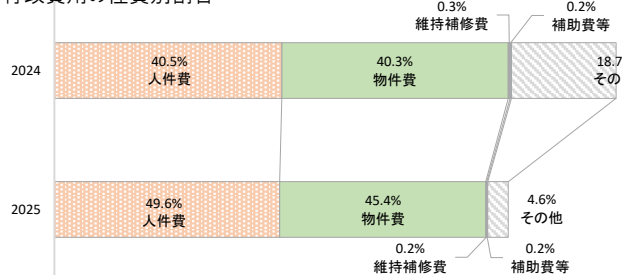
勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2024年度末 A	2025年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債				4,153	3,841	△ 312
	不納欠損引当金			0	0	0		還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産			0	0	0		地方債			0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	0	固定負債	賞与引当金			4,153	3,841	△ 312
		土地		0	0	0		その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)		139,000	139,000	0		負債の部合計			37,688	35,691	△ 1,997
		建物減価償却累計額		△ 139,000	△ 139,000	0		地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)		0	0	0	純資産	退職手当引当金			37,688	35,691	△ 1,997
	インフラ資産	工作物減価償却累計額		0	0	0		その他の固定負債			0	0	0
		無形固定資産		0	0	0		負債の部合計			41,841	39,532	△ 2,309
		建設仮勘定		0	0	0		純資産			931,489	940,523	9,034
		その他の固定資産		973,330	980,055	6,725		負債及び純資産の部合計			973,330	980,055	6,725
		資産の部合計		973,330	980,055	6,725							

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	市立博物館建物 139,000千円	所蔵芸術文化資料 930,055千円 資料収集基金 50,000千円	特になし
主な増減理由	増減なし	作品受贈により6,725千円増加。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



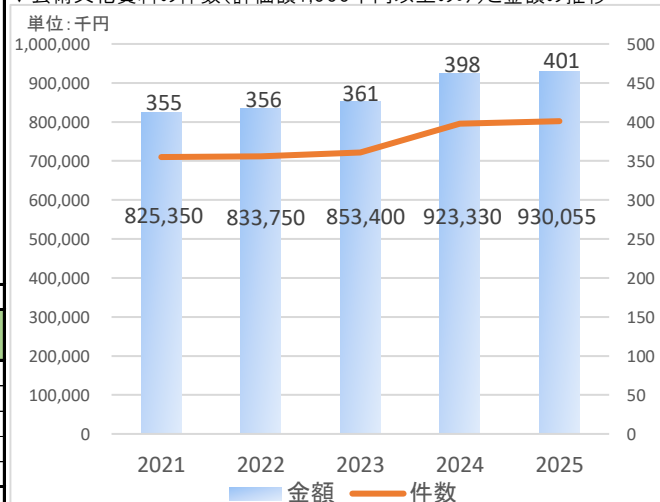
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2025 合計	2024 合計
内訳	博物館管理事務	3.4				0.6	4.0	4.6
	博物館展示事業	0.3					0.3	0.3
	博物館普及事業	0.9					0.9	0.4
							0.0	0.0
2025年度 特定事業 合計		4.6	0.0	0.0	0.0	0.6	5.2	5.3
2024年度 特定事業 合計		4.5	0.0	0.0	0.2	0.6	5.3	

6.個別分析

▽芸術文化資料の件数(評価額1,000千円以上のみ)と金額の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆工芸美術資料のうち、2024年度に寄贈を受けた作品118件の収蔵品管理データへの反映を完了しました。
- ◆2024年度の3回を上回る計6回の他美術館への作品貸出を実施し、市所有工芸美術品の魅力について積極的な周知を計りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆緊急性の高い項目に限定して修繕を実施したため、修繕費が減少しました。
- ◆電力消費の大きい展示室での作業が2024年度より少なく、使用電力量が減少したため、光熱水費が減少しました。

③2025年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆(仮称)国際工芸美術館のホームページ上での公開に向けて、工芸美術資料のデータの再確認と整理を行っていく必要があります。
- ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動が完了するまでは、引き続き博物館建物・設備の維持管理に努めます。
- ◆市所有の工芸美術品をPRするため、引き続き他の美術館への積極的な作品貸出を行います。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆(仮称)国際工芸美術館ホームページ上でのデータ公開に向けて、工芸美術資料の収蔵品管理データの再確認と整理を行います。 ◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開を段階的に進めます。 ◆引き続き、他美術館への市所有工芸美術品の積極的な貸出を行います。	◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開数を順次増やします。 ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動完了後、建物を解体し、土地を返還します。

